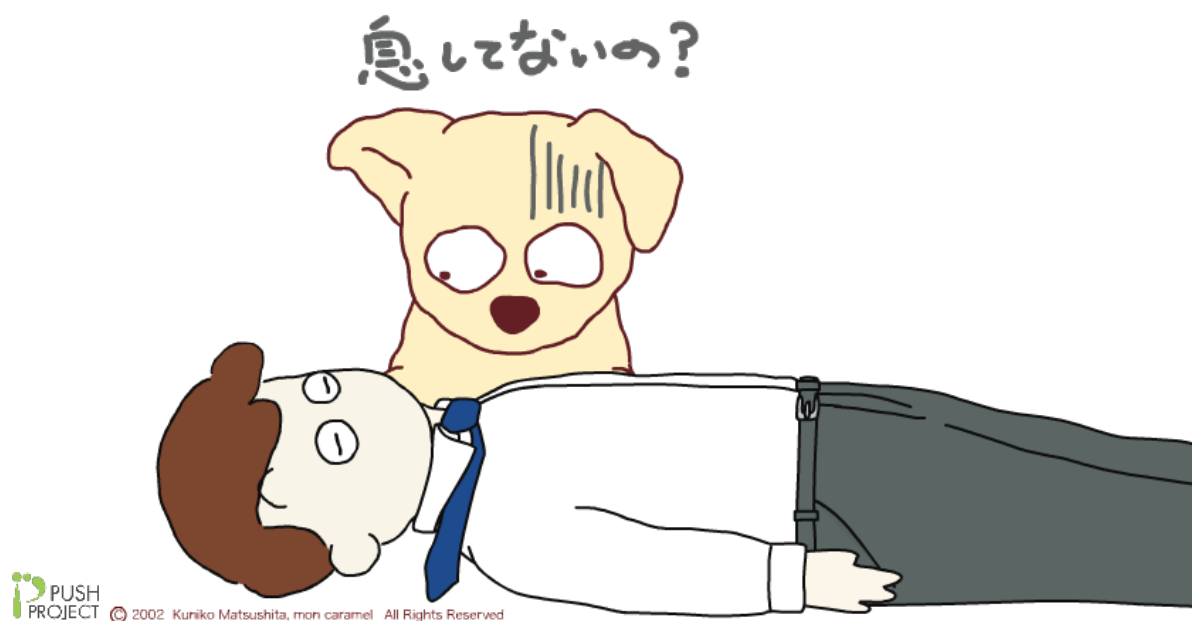


H31 年度 新入生 3000 名への救命講習会 実施報告書



2019/6/3

Ver.1

救命救急講習 Project Team 作成

目 次

I. 背景	1
II. 理念	1
III. 目的	1
IV. 方法	2-4
V. 結果	5-10
VI. まとめ	10
VII. 救命救急講習 Project Team メンバー	11
VIII. 謝辞	11
IX. 参考文献	12
X. 資料	
インストラクター用手順書	

I. 背景

心停止に陥った人を救命するためには、迅速な心肺蘇生の実施と自動体外式除細動器 (Automated External Defibrillator, AED) の使用が極めて重要である。¹ 京都大学構内にも 120 台以上の AED が設置されているが、残念なことに救命処置が実施されずに死亡した事例が発生している。心停止発生に備えた学校の安全管理体制を強化するためには、在学生・教職員に加え、新たに京都大学に加わるものすべてが、緊急事態への対応能力をもつことは不可欠である。

心停止の現場において、心肺蘇生の講習会を受講者していたものは、未受講者と比べて約 3 倍心肺蘇生を実施していた。² 心肺蘇生ガイドラインにおいて、¹「市民はあらかじめ心肺蘇生のトレーニングを受けておく」と記載されており、実際の心停止現場で行動が起こせる人の育成は喫緊の課題である。京都大学では、H27 年度から医学研究科・人間健康科学、環境安全保健機構、医学部附属病院 初期診療・救急科・救急部、医学部附属病院 総合臨床教育・研修センター、国際高等教育院と連携を図り、新入生へのガイダンスにおいて新入生約 3 千人を対象に、胸骨圧迫と AED の使い方を指導する救命講習会を始めた。³ この講習会で人命救助の手技を学生に指導し、「いのち」の大事さを教育することは、「教養が豊かで人間性が高く責任を重んじる人材」を育成する京都大学の教育理念にも一致しているものである (<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/profile/intro/ideals/basic/>)。

今年でこの取り組みもはや 5 年目を迎え、京都大学の学生約 15,000 人が胸骨圧迫と AED の使い方を学んだことになる。今年度はこの講習会の翌週、偶然大学の近くで率先して救命処置をしていた学生に遭遇した。今までの取り組みが実ったことを実感する瞬間であり、あらためてこの講習会の意義の深さを感じた。以下に、今年度の取り組みについて以下に報告する。

II. 救命講習会の理念

新入生に心身の健康と命の大切さを感じ取ってもらうことを目的とした講習である。新入生は、2 人ひと組のペアをつくって協力しあいながら、心肺蘇生の中でも一番大事な胸骨圧迫と AED の使い方の手技を心肺蘇生のトレーニングキット「あっぱくん[®]」を使って学ぶ。

この講習会では、心肺蘇生のスキルを教えることだけでなく、自分や周りの人の命の大切さを考えるきっかけを与えること、また、1 回生どうしのペアや、サポートスタッフの教員と対話しながら心肺蘇生を学ぶことによって、社会や仲間の中での自己信頼性と自己肯定性、自己有用性を高めていけるよう配慮する。

III. 救命講習会の目的

1. 心肺蘇生法を実施し AED を使用することで、救えるいのちがあることを知り、いのちの尊さを考えることができる。
2. 心停止の現場に居合わせた際に、直ちに 119 番通報を行い、迅速に胸骨圧迫を実施し、AED を使用するという救命処置の流れを理解することができる。
3. 同級生やサポートスタッフとコミュニケーションをとる。

Ⅳ. 方法

1. 対象

平成 31 年度京都大学に入学予定の全学部生 2,949 人

2. 実施枠組みと日程

4/2(火)から 4/4(木)14:00-16:30 まで、計 3 回に渡って行われる全学支援機構ガイダンス(2 時間 30 分)の時間枠のうち約 40 分間を用いて実施した。学生数が多いので、1 回あたりのガイダンスを受ける学生は約 1,000 人(200-300 人ずつ 4 部屋)とした。

1 回目:4 月 2 日(火)

教室	4 共 11(1F)	4 共 21(2F)	4 共 30(3F)	4 共 31(3F)
学生数	207	193	351	193
学部	医学部(医) 農学部 (資源生物)	医学部(人) 農学部 (地域環境) (食品生物)	理学部 農学部 (食料・環境)	薬学部 農学部 (応用生命) (森林科学)

2 回目:4 月 3 日(水)

教室	4 共 11(1F)	4 共 21(2F)	4 共 30(3F)	4 共 31(3F)
学生数	224	249	340	199
学部	文学部	経済学部 (編入生除く)	法学部	総合人間学部 教育学部 経済学部 (編入生)

3 回目:4 月 4 日(木)

教室	4 共 11(1F)	4 共 21(2F)	4 共 30(3F)	4 共 31(3F)
学生数	244	245	328	176
学部	工学部 (物理工学科)	工学部 (工業科学科)	工学部 (地球工学科) (電気電子工学科)	工学部 (建築学科) (情報学科)

3. 場所

吉田南 4 号館 4 共 11(1F)、4 共 21(2F)、4 共 30(3F)、4 共 31(3F)

4. 教育プログラム

1) トレーニングキット「あっぱくん[®]」

心肺蘇生のトレーニングキット「あっぱくん[®]」約 600 個を準備し、2 人で 1 個使用した(次項左写真)。あっぱくん[®]は、前日の 4/1(月)に、あらかじめ準備担当の教員と学部生とで 600 個のあっぱくん[®]を机の中にセットした(次項右写真)。



2) 時間割り

胸骨圧迫と AED の使い方を 1 人につき 1 体のトレーニングキットを用い、45 分間で多人数に対して指導を行う教育プログラムは、科学的検証を行い確立されている。⁴今回は、このプログラムを 40 分に短縮して行った。(X. 参考資料「サポートスタッフ手順書」参照)

3) インストラクターおよびサポートスタッフ

各部屋に 1 名のインストラクターと、学生 20 名につき約 1 名のサポートスタッフを配置した。対象となる学生数が多いため、インストラクターは、普段からあっぱくん[®]を使った講習会を実施している、熟練指導者を配置した。サポートスタッフは、人間健康科学の全ての教員、スポーツ実習の非常勤教員、国際高等教育院の教員、初期診療・救急医学分野の教員および医員でこの救命講習会に賛同してもらえる参加者を募った。

5. 準備

1) 吉田南 4 号館の準備

H30 年 4 月の講習会終了後、Project Team メンバーで会議をもち事前準備をおこなった。

- ✓ 学内あっぱくん[®]の数の確認と運搬方法
- ✓ 教員配置の方法
- ✓ 実習を行う上での安全面への配慮(可動式の机の使用に関しては机の強度の確認)
- ✓ 各インストラクターが部屋で使用する PC と音響の動作確認

2) サポートスタッフの確保

20 人に 1 名のサポートスタッフ教員が必要であり、1 回講習会あたり 1,000 人指導するには 1 回あたり約 50 人前後のサポートスタッフ教員を要する。人間健康科学にとっては、この講習会は専攻全体の取り組みであるため、H31 年度も全ての教員がサポートスタッフとして参加した。H31 年 1 月から国際高等教育院、スポーツ実習、初期診療・救急医学分野でもサポートスタッフの募集を行った。

3) 手順書の作成

救命講習会に携わる全ての教員に、この講習会の理念、目的、手順をあらかじめ知ってもらうために手順書を作成した。初めて心肺蘇生講習会を指導する側に立つ教員、あっぱくん[®]を使った講習会に初めて参加する教員にもイメージしてもらいやすいように、絵や写真を盛り込み工夫をした。救命講習会の約 2 週間前、全てのサポートスタッフの教員に手順書を手渡した。人間健康科学では、H31 年 3 月 22 日(木)の FD にて、全教員に手順書を見ながら説明を行った。

また、4 人のインストラクターが各部屋で講習会を行うため、インストラクターごとに教育の質が異ならないように、インストラクター間で進行について確認を行った。

4) あっぱくんの配備

学内のいくつかの部局にあるあっぱくん[®]全 598 個を集め(国際高等教育院:299 個、研修センター:187 個、健康科学センター:112 個)、H31 年 4 月 1 日(月)9:00 から、準備係の教員と学部学生とで、講習を行う 4 部屋の机の下にあらかじめセットした。

V. 結果

今年度は、関西大学総合情報学部教授の村田忠彦先生に、講習会の初日(4/2)お越しいただきました。村田先生からは、ご自身がマラソン中に心停止になり、社会復帰に至るまでのお話を講習会開始前にしていただきました。村田先生が倒れられた時、偶然周りにいた方々が村田先生に胸骨圧迫を実施されたことで、一命をとりとめられたこと、そのことに対する感謝の意、心肺蘇生法を学ぶ重要性を学生に語って下さりました。学生たちは村田先生のお話を真剣に聞いて、その後の講習会にも一生懸命取り組んでくれているように感じた。

以下は、講習会の流れについて、写真等を用いて概要を説明する。

メッセージ ビデオ	・講習会を始める前、心停止で子供を亡くされた親御さんたち、心停止から生還された方たち協力のもと作成した、約5分間のメッセージビデオを視聴し、なぜこの講習会を学んでもらいたいのか、動機づけを行った。 ・学生は、真剣にDVDを見ていた。	
胸骨圧迫 の練習	・学生たちは、DVDを見ながらよく笑っていた。 ・あっぱくんを使って胸骨圧迫の練習。結構強く押さないと止まってしまった心臓の代わりに血液や酸素を全身に送ることをできないことを説明した。 ・強く、早く、絶え間なく、隣の学生が胸骨圧迫できるように応援していた。	

AED の 使い方	・あっぱくん [®] に含まれている紙 AED を、あっぱくん [®] に貼っている様子。	
--------------	---	--

1. 4月2日(火)(1回目)

1) 学生数とその背景

このガイダンス対象の予定入学者数は 944 人であり、833 人からアンケートの回収ができた(回収割合 88.2%)。585 人(70.2%)が男性であった。

2) 教員数

インストラクター数 4 人

(人間健康科学 1 人、環境安全保健機構 2 人、理学部 1 人)

サポートスタッフ数 49 人

(人間健康科学 43 人、スポーツ実習 2 人、救急部 4 人)

2. 4月3日(水)(2回目)

1) 学生数とその背景

このガイダンス対象の予定入学者数は 1,012 人であり、778 人からアンケートの回収ができた(回収割合 76.9%)。533 人(68.5%)が男性であった。

2) 教員数

インストラクター数 4 人

(人間健康科学 1 人、環境安全保健機構 1 人、理学部 1 人、人間・環境学研究科 1 人)

サポートスタッフ数 61 人

(人間健康科学 49 人、スポーツ実習 1 人、国際高等教育院 7 人、救急部 4 人)

3. 4月4日(木)(3回目)

1) 学生数とその背景

このガイダンス対象の予定入学者数は 993 人であり、803 人からアンケートの回収ができた(回収割合 80.9%)。713 人(88.8%)が男性であった。

2) 教員数

インストラクター数 4 人

(人間健康科学 1 人、環境安全保健機構 1 人、国際高等教育院 1 人、研修センター1 人)

サポートスタッフ数 56

(人間健康科学 46 人、スポーツ実習 1 人、国際高等教育院 4、救急部 5 人)

4. 学生アンケート結果

3 日間で合計 2,414 人からアンケート回答を得ることができた(81.9%)。

1) 本学入学前の教育課程における、心肺蘇生法および AED に関する教育歴

アンケートを回答した学生のうち実技を伴う授業を受けていたものは、68.8%であった。

問 1. これまでに、心肺蘇生法や AED の使い方の講習会を受けたことがありますか？

	n=2,414	%
トレーニング人形を用い、 実技をともなう実習形式の授業	1660	68.8
講義のみの授業	370	15.3
今回初めて心肺蘇生法の授業を受けた	351	14.5
無回答	33	1.4

問 2. 今まで講習会を受けた方は、どこでその講習会を受けましたか？(重複回答)

	n=2,030	%
小学校	349	17.6
中学校	1096	55.9
高等学校	1480	75.4
小学校＋中学校＋高等学校	177	9.0
運転免許取得時	44	2.2
その他	97	4.9

2) 今回の取り組みについて

問 3. 入学オリエンテーション時に、心肺蘇生法のプログラムを行うことをどう思いますか

約 90%の学生が、ガイダンスで救命講習会を実施することに有意義だと感じていた。

	n=2,414	%
有意義だと思う	1643	68.1
どちらかというとき有意義だと思う	523	21.7
どちらとも言えない	140	5.8
どちらかというとき意味がないと思う	28	1.2
意味がないと思う	33	1.4
無回答	47	1.9

問 4. 心肺蘇生や AED の使い方を定期的に学びたいと思いますか？

64.3%の学生が、定期的に学びたいと思っている。

	n=2,414	%
とても思う	638	26.4
どちらかという学びたいと思う	915	37.9
どちらとも言えない	586	24.3
どちらかという学びたいとは思わない	156	6.5
全く思わない	78	3.2
無回答	41	1.7

問 5. サポートスタッフの教員や周りの新入生と講習会中 1 回でも話をしましたか？

1,945(80.9%)の学生が、この講習会中に周りの教員や新入生と話をしていたと回答した。

問 6. 救命講習会を受けた感想(寄せられた 1,904 名からの一部抜粋)回答割合: 79.6 %

- ・道端に倒れている人がいても声をかけられる気はしなかったが、そうすることの大切さが改めて分かった。
- ・自分の行動が他人の生死を決めうるのだと感じた。
- ・救命措置を行うだけで救える命がたくさんあると改めて思った。
- ・知らないといけないし、知っておいてよかった。
- ・勇気ある行動が人の命だけでなく気持ちも救う。
- ・自分の少しの勇気で救われる命があるなら、きちんと準備をしておきたいと感じた。
- ・先生の真剣な思いも伝わってきてよい機会になった。
- ・人ごとだと思わず、自分ができるように、きちんと準備しようと思う。
- ・自分の前で人が倒れた時に助けられるか不安になりました。
- ・入学する前に AED の使い方を学べたのは非常に有意義だった。
- ・実際に人が倒れた場面で勇気を出せるか、少し自信がないです。
- ・強く圧迫すると、話には聞いていたが、実際にやってみて感覚が分かった。
- ・胸骨圧迫は続けてやるととても疲れました。
- ・できるかぎり多くの人が協力して処置するのが大切だと思います。
- ・救急活動は恥ずかしいことではないと再認識した。
- ・自分の行動で人の命を救うことができると分かったのでこれからも忘れずにいたいです。
- ・特に難しいことではなく、誰にでもできることなので、怖がらずにやるのが大切だと思う。
- ・複数回体験したことがありますぐり返して練習することは大切だと思います。
- ・助かった人の話を聞いて、人の生命が自分の手にかかっていることを強く意識した
- ・呼吸していないときだけでなく、普通の呼吸でないときも心臓マッサージをしていいことがわかった。

- ・AED の指示がなされるということを知ることができたのでとても実りのあるものだった。ためらいの意識がなくなった。
- ・いざというとき、何をすべきかが判ったので、心肺蘇生への心的ハードルが下がった。
- ・自分には関係ないと思っていたので、誰にでも起こりうることだと知ってびっくりした。
- ・いままでは友人といっしょに講習をうけていたが、今回ははじめて会った人とやったので、知らない人とも協力できるようになったと思う。
- ・今回の講習が、万一のときに声をかけて処置を行うことの後押しになると思った。実を言うとこれまで、目の前で人が倒れた時、不器用な自分は無力だと思いこんでいた。
- ・専門家でない自分でも人命を救えることがわかり、そのような場面に遭遇したら適切に行動したいと思いました。
- ・このような機会に、やり方を確認するのは非常に重要だと思った。
- ・命というものは案外もろくて、いつ死んでもおかしくないのが、今生きているということに改めて素晴らしいと思った。
- ・数字などのデータでしか知らなかった心停止からの生還者が本当にいて喋っているということに感銘を受けた。
- ・勇気をもって声をかけることさえできれば、救命措置自体はそれほど難しいものではないので、声をかけられるよう、普段から意識しておくことが大切だと思った。
- ・生活の中でも、人が倒れる場面に遭遇する可能性は十分にあるということを実感した。
- ・本当に AED で助かった方にお会いし驚きました。
- ・知識だけでなく、勇気をもって助けようとするのも大切だと思った。
- ・心肺蘇生がより身近なものとして感じられるようになり、実際助かった人から話を聞いて誰でも心肺蘇生に立ち会う可能性があるということがよくわかった。
- ・心臓マッサージは意外と疲れることが多く、人は多くいると思い、救助者がいても、介入していきたいと思った。
- ・小・中・高と習っていたが 1 年に 1 回はやらないと忘れるし、自信がなくなる。京大でも 1 年に 1 回は強制的にでもやる機会が欲しい。
- ・私は友人を突然死で亡くしているので、こういう講習が定期的に行われるといいと感じました。
- ・同年代の人も突然倒れることがあると知って危機感をもった。
- ・AED は使うのに専門的知識を要するイメージがあったが、今回の講習で、全くそれは必要なく、早ければ早い程良いことを知り、万が一の場合には自分がやろうという気になった。
- ・昔やったことがあるから必要ないかなと思っていたが、改めて学ぶことで、いつ起きても大丈夫、というような心構えができた。
- ・最初に話かけるところが一番難しいことだから、勇気をもって声をかけたいと思った。
- ・自分にできることは必ず率先してやろうという意思を固めました。「自分がやらなければ助からない」と考え、今回習ったことを万が一のときは自分から進んで活かしていきたいです。

5. 体調不良を起こした学生

3回の救命講習会中9人が体調不良を起こし(4月2日1人、4月3日5人、4月4日3人)、各部屋の救急部の医師らによって救護室に運ばれ、経過観察された。気分不良を起こしたタイミングは、学生により異なっていた。いずれも自律神経失調症の症状(冷汗、体の一部が震える、立ち眩み、気分不良、顔面蒼白など)を起こし、車いすや教員に支えられながら救護室に搬送された。全員、救護室(4共14)の椅子で横になりしばらく休んだ後、自力歩行でガイダンスの部屋に戻ったり帰宅したりした。

VI. まとめ

全新入生に対する、胸骨圧迫とAEDの使い方を指導する講習会の実施が5回目になり、これらのスキルを身に着けた京都大学の学生が累計で約15,000人誕生したことになる。胸骨圧迫とAEDの使い方の教育を、全ての学生を対象に継続して行っている大学はなく、本取り組みは類をみないものである。

ガイダンス初日の平成31年4月2日、心停止から生還された村田忠彦先生からお話を伺った。学生にとって自分たちが学んだ胸骨圧迫やAEDを使うことで人の命を助けることができることを強く感じたのではないかと思う。自由記載では、「心肺蘇生がより身近なものとして感じられるようになり、実際助かった人から話を聞いて誰でも心肺蘇生に立ち会う可能性があるということがよくわかった。」「数字などのデータでしか知らなかった心停止からの生還者が本当にいて喋っているということに感銘をうけた。」「助かった人の話を聞いて、人の生命が自分の手にかかっていることを強く意識した」などと述べており、生存者の存在の大きさを改めて感じた。さらに学生の救命意欲を高めるために、平成29年度より本講習会を受講した学生を対象に、人が倒れた場面に遭遇した経験および、その際の救助活動実施の有無に関する調査の結果を講習会で伝えた。この調査では学生が、人が倒れた場面(遭遇頻度2.5/100人年)や心停止場面(遭遇頻度1.1/100人年)に遭遇する頻度を明らかにした⁶。これらの数字を講習会の中で伝え、心停止に遭遇することは稀なことではなく、身近であることを伝え学生の救命意欲を高める工夫を行った。今年度は幸運にも、生存者である村田先生からのお話を伺うことができ、学生の救命意欲を高めるにも大変効果的であったと感じている。今後も救命意欲を高められるように、講習会内容を検討していきたいと思う。

アンケートで68.8%の学生が、大学入学までに実技を伴う心肺蘇生の講習を受けており、この数字は講習会を開始した平成27年度よりも増えているが、ここ数年ほぼ横ばいである(平成27年度57.5%、平成28年度60.4%、平成29年度65.4%、平成30年度66.9%)。学校での安全教育が強調されてきている昨今、大学に入学するまでの教育課程で、心肺蘇生教育が実施され、いずれ入学する全ての学生が、実技を伴う心肺蘇生の講習の経験を有して欲しいと考えている。

65.0%の学生が、定期的に心肺蘇生講習を学びたいと述べていた。心肺蘇生の手技は習得したとしても時間とともに減衰することが先行研究で指摘され、ガイドラインでは心肺蘇生法のスキルを維持するために、繰り返し講習会を受講する必要性が強調されている。また心肺蘇生に関するガイドラインは5年に1回改訂され、次回2020年に改訂予定である。現在、入学時に全て

の学生に行っているが、入学後、全ての学生を対象にした再教育の機会を設けることができてない。救命意欲、知識、技術の維持のために、今後再教育について検討することが課題である。

次年度以降も、救命救急講習 Project Team メンバーを中心に、国際高等教育院、環境安全保健機構、医学研究科などの関連部局と密に連携を取り、継続してこの取り組みが行えるようにしていきたい。また、他大学でもこの取り組みが実施されるように、情報発信していくことが今後の課題である。

VII. 救命救急講習 ProjectTEAM メンバー

今回の救命講習会は、下記の ProjectTEAM メンバーによって企画・運営・実施された。

チームリーダー	石見 拓（環境安全保健機構 健康科学センター・教授）
サブリーダー	黒木裕士（医学研究科・人間健康科学系専攻・教授）
チームメンバー	馬場正昭（理学研究科・化学専攻物理化学講座・教授）
チームメンバー	川村 孝（環境安全保健機構 健康科学センター・教授）
チームメンバー	小池 薫（医学研究科・初期診療・救急医学分野・教授）
チームメンバー	田中真介（国際高等教育院・准教授）
チームメンバー	金丸敏行（国際高等教育院・准教授）
チームメンバー	佐藤隆平（医学研究科・人間健康科学系専攻・助教）
チームメンバー	内藤知佐子（医学部附属病院 総合臨床教育・研修センター・助教）
チームメンバー	小林大介（環境安全保健機構 健康科学センター・助教）
チームメンバー	江川達郎（人間・環境学研究科・共生人間学専攻認知・行動科学講座・助教）
コーディネーター	西山知佳（医学研究科・人間健康科学系専攻・講師）

【あっぱくん運搬担当および、資料作成担当サポート】

森瀬譲二（医学研究科・人間健康科学系専攻・助教）

岡橋さやか（医学研究科・人間健康科学系専攻・助教）

VIII. 謝辞

今回の講習会を実施するにあたり、ご協力を下さりました吉田南構内共通事務部、情報環境機構（情報部）情報環境支援センター、人間健康科学系専攻事務の皆様には厚く御礼申し上げます。学生およびサポートスタッフの教員に対して、心停止になって生還した自らの体験をお話して下さった関西大学総合情報学部教授の村田忠彦先生に深謝いたします。

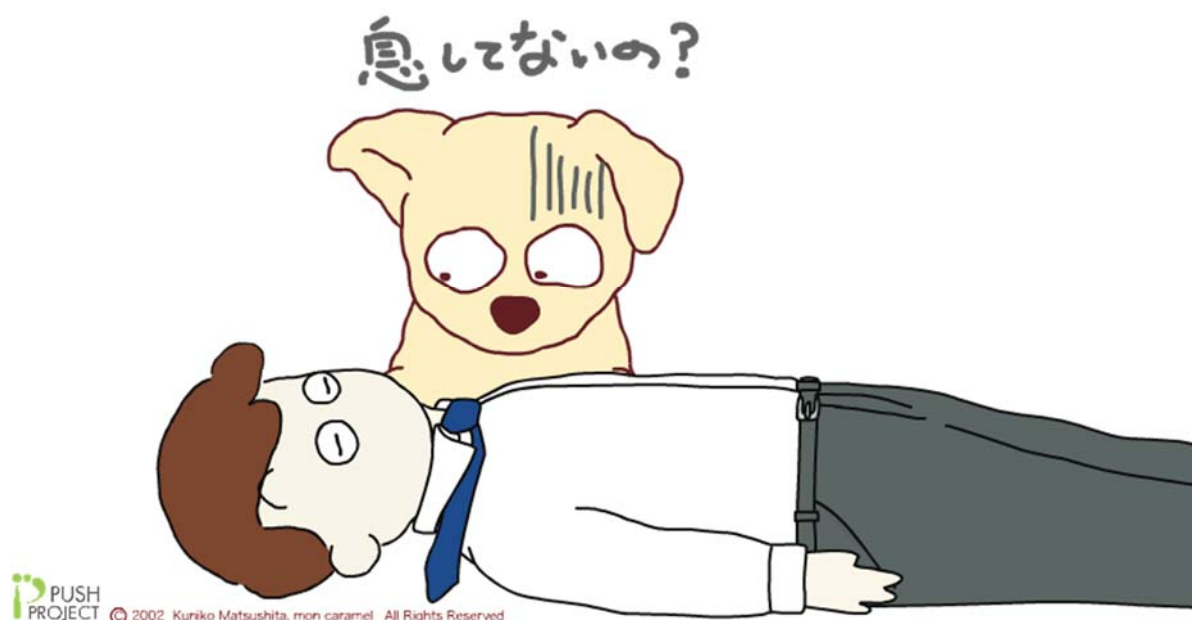
Ⅸ. 参考文献

1. JRC 蘇生ガイドライン 2015、一般社団法人 日本蘇生協議会(監修)、医学書院、2016 年
2. Tanigawa K, Iwami T, Nishiyama C, et al. Are trained individuals more likely to perform bystander CPR? An observational study. Resuscitation. 2011;82:523-8.
3. H30 年度新入生 3000 名への救命講習会実施報告書(http://www.med.kyoto-u.ac.jp/wp-content/uploads/2018/06/20180626_appakun.pdf) (2019/5/28 アクセス)
4. Nishiyama C, Iwami T, Kitamura T, et al. Long-term retention of cardiopulmonary resuscitation skills after shortened chest compression-only cardiopulmonary resuscitation training and conventional cardiopulmonary resuscitation training: a randomized controlled trial. Acad Emerg Med. 2014; 21: 47–54.
5. Nishiyama C, Sato R, Sano M, Baba M, Kuroki H, Kawamura T, Kiguchi T, Kobayashi D, Shimamoto T, Koike K, Tanaka S, Naito C, Iwami T. Actual Behavior After A Training Of Chest Compression-only CPR And AED Use For 3000 New Students. Presented at the 2017 American Heart Association Scientific Session, Resuscitation Science Symposium. Anaheim, California, Nov 13, 2017.
6. 西山知佳、佐藤隆平、馬場正昭、黒木裕士、川村 孝、小林大介、小池 薫、田中真介、内藤知佐子、石見 拓. 入学時心肺蘇生講習を受講した大学生が実際の救急現場に遭遇した際の救助行動. 第 82 回日本循環器学会学術集会(2019 年 3 月横浜)

H31 年度

新入生 3000 名への救命講習会

サポートスタッフ手順書



2019/03/25

Final version

救命救急講習 Project TEAM 作成

目 次

I. 救命講習会の理念	1
II. 救命講習会の目的	1
III. 救命講習会実施の概要	1
IV. 場所・日程・学生部屋割り	1-3
V. あっぱくんについて	3
VI. サポートスタッフの役割	4-5
VII. 当日の流れ	5
VIII. 救命講習会時間割り	6
IX. サポートスタッフ担当表	7-9
X. 教室配置図	10-21
4/2(火):4 共 11、4 共 21、4 共 30、4 共 31	10-13
4/3(水):4 共 11、4 共 21、4 共 30、4 共 31	14-17
4/4(木):4 共 11、4 共 21、4 共 30、4 共 31	18-21
XI. 体調不良、怪我など	22
XII. 地震・火災等避難経路方法	23

I. 救命講習会の理念

新入生に心身の健康と命の大切さを感じ取ってもらうことを目的とした講習です。新入生は、2人ひと組のペアをつくって協力しあいながら、心肺蘇生の中でも一番大事な胸骨圧迫とAEDの使い方の手技を心肺蘇生のトレーニングキット「あっぱくん®」を使って学びます。

この講習会では、心肺蘇生のスキルを教えることだけでなく、自分や周りの人の命の大切さを考えるきっかけを与えることです。また、1回生同士のペアや、サポートスタッフの教員と対話しながら心肺蘇生を学ぶことによって、社会や仲間の中での自己信頼性と自己肯定性、自己有用性を高めていけるよう配慮したいと思います。

II. 救命講習会の目的

1. 心肺蘇生法を実施しAEDを使用することで、救えるいのちがあることを知り、いのちの尊さを考えることができる。
2. 心停止の現場に居合わせた際に、直ちに119番通報を行い、迅速に胸骨圧迫を実施し、AEDを使用するという救命処置の流れを理解することができる。
3. 同級生やサポートスタッフとコミュニケーションをとる。

III. 救命講習会実施の概要

4/2(火)-4/4(木)14:00-16:30に新入学生に対して行われる全学機構ガイダンス(2時間30分)のうち40分間(15:20-16:00)で、救命講習会を行います。学生数が多いので、4教室で同時に講習を進め、1回の講習で約1000名、全3回行うことで新入生約3000人に指導を行います。

IV. 場所・日程・学生部屋割り

1. 場所: 吉田南4号館(地図番号92)

4 共 11(1F)

4 共 21(2F)

4 共 30(3F)

4 共 31(3F)

2. 日程: 事前説明時間を含む

2019年4月2日(火)14:30-16:00

2019年4月3日(水)14:30-16:00

2019年4月4日(木)14:30-16:00



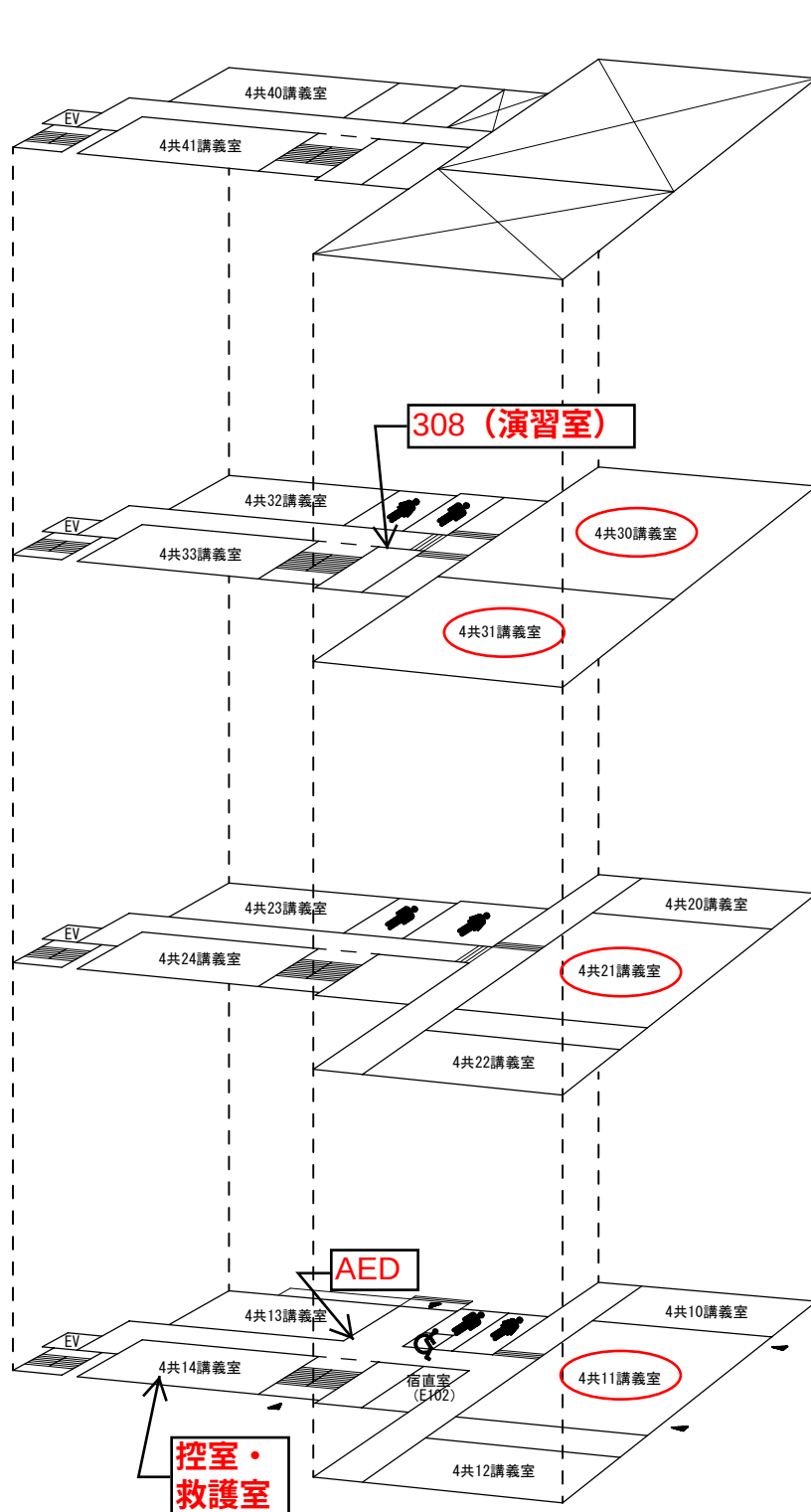
吉田南 4 号館

4 階

3 階

2 階

1 階



3. 学生部屋割り

①4月2日(火)

教室	4 共 11(1F)	4 共 21(2F)	4 共 30(3F)	4 共 31(3F)
学生数	205	187	351	192
学部	医学部(医) 農学部 (資源生物)	医学部(人) 農学部 (地域環境) (食品生物)	理学部 農学部 (食料・環境)	薬学部 農学部 (応用生命) (森林科学)

②4月3日(水)

教室	4 共 11(1F)	4 共 21(2F)	4 共 30(3F)	4 共 31(3F)
学生数	226	254	343	202
学部	文学部	経済学部 (編入除く)	法学部	総合人間学部 教育学部 経済学部 [†]

③4月4日(木)

教室	4 共 11(1F)	4 共 21(2F)	4 共 30(3F)	4 共 31(3F)
学生数	243	245	334	180
学部	工学部 (物理工学)	工学部 (工業化学)	工学部 (地球工学) (電気電子)	工学部 (建築) (情報)

* 学生数は H30 年度の数です。多少変動はあると思いますが、H31 年度もほぼ同じ数です。

†編入生

V. あっぱくんについて

今回は心肺蘇生のトレーニングキット「あっぱくん®」を 2 人で 1 個 (奇数の座席については、1 人 1 個の箇所もあり)を使います(右写真)。

あっぱくん®は、講習会が始まる前にあらかじめ机の中にセットされています(下記写真)。インストラクターは、講習会が始まったら机の上にあっぱくん®を出すように指示をします。

こんな感じで事前に準備しておきます⇒



VI. サポートスタッフの役割

1. 概要

今回の講習会は、スライドに流れる DVD 映像を見た後、一旦 DVD を止めてみんなで実技を行います。サポートスタッフ 1 人で約 20 名の新入生を担当し、(担当部屋は、page7-9 参照) 下記の内容を行っていただきたいと思います。

2. 役割(お願いしたいこと)

- ①DVD の流れについて実技ができているかどうかを見守り、励ましの言葉をかけて下さい
(よくある例:時々DVD をちゃんと見ておらず、何をしたらいいかわからなくなっている)
- ②DVD と異なることをしていたら、声を掛けてサポートして下さい
(よくある例:AED のパットを貼る位置が、左右逆。あっぱくん®の置く向きが違う。)
- ③胸骨圧迫の練習の際、手の組み方、ひじが曲がっていないか、ハートの真ん中が押せているか確認して「いいね!」「その調子」「がんばれ!」など声掛けをしてください
- ④あっぱくん®から音が鳴らなくてもしっかり押せていると思われたら、「大丈夫。押せている」と言ってあげて下さい。机の高さと身長が合わず力が入りにくい学生がいると思います(特に女子)。できる範囲で胸骨圧迫の練習をしてもらって下さい。
- ⑤DVD についていけない新生が入った場合、全体の流れを調整するようにインストラクターに伝えて下さい。学生数が多いので、インストラクターは細部まで目が行き届かない場合があります。
- ⑥DVD の映像を見る時以外は、担当する新生に積極的に声を掛けて下さい
(例:うまく胸骨圧迫ができていたら褒めて下さい。)
- ⑦講習会中盤で、2 人一組になって胸骨圧迫の交代の練習をする場面があります。ここがサポートスタッフの一番必要なところです。左右でペアがいなくて一人になっている学生がいないか?(奇数の座席数は前後で)うまく 2 人 1 組になるように誘導して下さい。2 人組にならない場合は、その学生とペアになって下さい。一人ぼっちになると寂しいです。
- ⑧4/4(木)の講習を担当して下さったサポートスタッフは、担当した学生のあっぱくん®を集め、教室後ろあるいは前にあるあっぱくん®の回収 BOX へ入れて下さい。その後あっぱくん®を所定の返却場所まで運搬しますので、「あっぱくん運搬責任者」の先生と一緒にお願いします。その後は、流れ解散で結構です。

【あっぱくん返却場所】

4 共 21、4 共 30 のあっぱくん⇒3F308(演習室)へ運搬。

4 共 11 と 4 共 31 のあっぱくん⇒1F の入り口付近まで運搬。

3. あっぱくん運搬責任者の役割(スタッフ番号がついてない先生方)

- ①集合時間の 10 分程度前に吉田南 4 共 14 の部屋にお越し頂き、担当教室の教員の出欠確認を行い、全体説明開始時間(14:30)までに西山にメンバーがそろっているか否かお伝えください。
- ②4 共 11, 4 共 21, 4 共 31 の先頭列には机の下にあっぱくんを入れられないため、教壇の近くに積まれているあっぱくンを学生に配布し、初日、二日目の講習後は回収して元の位置に置いておいて下さい。
- ③何か困っていることがないか見渡し、学生のサポートをお願いします。
- ④インストラクターのサポートをお願いします。
- ⑤DVD が見やすいように部屋の電気の調整をお願いします。(注・冒頭のメッセージビデオの時はすべての電気を消して下さい)
- ⑥最終日、サポートスタッフが持ってきたあっぱくん®を講義室後ろまたは前にある段ボールに 20 個ずつ詰めて下さい。その後、他の教員と協力のもと下記の場所へ運搬して下さい。

【あっぱくん返却場所】

4 共 21、4 共 30 のあっぱくん®⇒3F308(演習室)へ運搬。

4 共 11 と 4 共 31 のあっぱくん®⇒1F の入り口付近まで運搬。

VII. 各日、当日の流れ

時間	項目	場所・備考
14:30	サポートスタッフ 控え室集合	4 共 14(1F)
14:30-15:00	説明	全体説明後、4 共 13(1F)と 4 共 14(1F)に分かれる
15:00-15:20	各部屋に移動	4 共 11(1F)、4 共 21(2F)、4 共 30(3F)、4 共 31(3F)
15:20-16:00	救命講習会	4/2 と 4/3 は終了後、適宜解散
16:00-16:10	4/4 のみ あっぱくん®回収 および後片付け	・4/4 のみ講習会終了後、担当学生のあっぱくん®を集め、回収 BOX へ収納。 ・収納後、あっぱくん運搬責任者と一緒に所定の場所へあっぱくンを運搬(上記参照)。 ・その後、流れ解散。

平成31年度 新入生への救命救急講習会（2019.03.10現時点）

場所：吉田南4号館（4共11、4共21、4共30、4共31）

日時：2019年4月2日（火）～4日（木）15:20-16:00

目標

1. 命の大切さ、尊さを考える。
2. 第一救助者の重要性を理解する。
3. 胸骨圧迫とAEDの意義とその方法を理解する。



特に気に掛けていただきたい項目

	時刻			項目		お願い
導入	15:20	～	15:24			・あいさつ ・写真・ビデオ撮影の説明
	15:24	～	15:32	メッセージビデオ		・動機づけのためのメッセージビデオを見ます。 ・メッセージビデオ後、あっぱくんを机の上に出し蓋を開けてもらいます。蓋が開かない学生がいたらサポートをお願いします。
展開	15:32	～	15:35	第一話		手首で脈の確認をしますが、見つけられない学生がいたらサポートをお願いします。
	15:35	～	15:35			集中してない学生がいたら、続きのDVDを見るように促して下さい。
	15:35	～	15:37	第二話		声を出すことを恥しがるかもしれませんので、先生方も一緒に声を出して下さい。
	15:37	～	15:39			あっぱくんの胸（ハートの辺り）や、お腹辺りを見ているか確認してください。
	15:39	～	15:40			左右どちらが上でもいいので、手が組めているか確認してください。
	15:40	～	15:43			胸骨圧迫を1人30秒体験します。 30秒経ったら、合図を出しますのであっぱくんを隣の人に渡します。
	15:43	～	15:44			胸骨圧迫の交代の方法をDVDで見ます。
	15:44	～	15:50			2人1組になれているか確認してください。 30秒経ったら合図をしますので、学生同士声を掛けあって胸骨圧迫の交代をします。注）あっぱくんを移動させず、人が移動するようにして下さい。
	15:50	～	15:53	第三話		自分の体でAEDパットを貼る位置を確認しますが、逆になってないか確認してください。
	15:53	～	15:55			AEDの音声を聞いてみます。 模擬AEDの電気ショックボタンを押します。
	15:55	～	15:56			
まとめ	15:56	～	16:00	まとめ		

H31年度 3000人講習会サポートスタッフ配置案(2019.3.22現在)

日程		事前準備係 2019/4/1	2019/4/2(火)				
講習会時間		9:00-11:00	15:20-16:00				
教室名(吉田南4号館)		馬場正昭 金丸敏幸 西山知佳 佐藤隆平 森瀬譲二 江川達郎 学生12名	4共11(1F)	4共21(2F)	4共30(3F)	4共31(3F)	合計
部局			医学部(医) 農学部 (資源生物)	医学部(人) 農学部 (地域環境) (食品生物)	理学部 農学部 (食料・環境)	薬学部 農学部 (応用生命) (森林科学)	
インスト			佐藤隆平	西山知佳	石見 拓	馬場正昭	
学生人数 *			205	187	351	192	935
あっぱくん個数			103	94	176	96	469
あっぱくん所属			研修センター	高等教育院	高等教育院	健康科学	
サポート スタッフ メンバー	あっぱくん 運搬責任者		清 水 彬 礼	上 野 智 弘	谷 口 匡 史	伊 藤 明 良	
			①森 瀬 譲 二	①池 添 冬 芽	①大 畑 光 司	①岡 橋 さやか	
			②大 塚 研 一	②笹 山 哲	②任 和 子	②加 藤 寿 宏	
	救護隊(救急部)		③王 徳雄	③柚木 知之	③趙 晃 済	③樽本 浩司	
			④山之内 智子	④柳 吉 桂 子	④石 津 浩 一	④大 倉 美 佳	
			⑤道端 明子 (スポ実)	⑤谷 一 靖 江	⑤前 田 祐 子	⑤中 村 光 宏	
			⑥伊 吹 謙太郎	⑥鳥 井 美 江	⑥若 村 智 子	⑥山 田 純 栄	
			⑦松尾 英将	⑦田 畑 阿 美	⑦十 一 元 三	⑦三 谷 章	
			⑧清 川 加奈子	⑧梁 楠	⑧天 谷 真奈美	⑧野 中 元 裕	
			⑨新 福 洋 子	⑨谷 向 仁	⑨椎 名 毅	⑨徳 野 治	
			⑩島 淳	⑩稲 富 宏 之	⑩井 沢 知 子		
			⑪高山 優子 (スポ実)		⑪鎌 田 真由美		
					⑫白 井 由 紀		
					⑬須賀原 教 子		
					⑭古 田 真里枝		
					⑮青 山 朋 樹		
					⑯PATAKY Todd		
		全体統括見守り隊		黒 木 裕 士			
		控室待機担当		近 藤 祥 子			

* 学生人数は、H30度数

* 学生人数は、H30度数

H31年度 3000人講習会サポートスタッフ配置案（2019.3.22現在）

日程		2019/4/3（水）				
講習会時間		15:20-16:00				
教室名（吉田南4号館）		4共11(1F)	4共21(2F)	4共30(3F)	4共31(3F)	合計
部局		文学部	経済学部	法学部	総合人間学部 教育学部 経済学部(編入)	
インスト		佐藤隆平	西山知佳	石見 拓	馬場正昭	
学生人数 *		226	254	342	202	1,024
あっぱくん個数		113	127	171	101	512
あっぱくん所属		研修センター	高等教育院	高等教育院	健康科学	
サポート スタッフ メンバー	あっぱくん 運搬責任者	清 水 彬 礼	上 野 智 弘	谷 口 匡 史	伊 藤 明 良	
		①森 瀬 譲 二	①池 添 冬 芽	①大 畑 光 司	①岡 橋 さやか	
		②大 塚 研 一	②笹 山 哲	②山 田 重 人	②加 藤 寿 宏	
	救護隊(救急部)	③邑田 悟	③河生 多佳雄	③下戸 学	③角田 洋平	
		④山之内 智子	④柳 吉 桂 子	④石 津 浩 一	④大 倉 美 佳	
		⑤服部 高宏(高等)	⑤谷 一 靖 江	⑤前 田 祐 子	⑤中 村 光 宏	
		⑥伊 吹 謙太郎	⑥鳥 井 美 江	⑥若 村 智 子	⑥桂 敏 樹	
		⑦加藤 立久(高等)	⑦田 畑 阿 美	⑦十 一 元 三	⑦高山 優子(スポ実)	
		⑧清 川 加奈子	⑧梁 楠	⑧天 谷 真奈美	⑧野 中 元 裕	
		⑨新 福 洋 子	⑨谷 向 仁	⑨吉崎 武尚(高等)	⑨徳 野 治	
		⑩島 淳	⑩稲 富 宏 之	⑩任 和 子	⑩三 谷 章	
		⑪松 尾 英 将	⑪小 川 真 寛	⑪鎌 田 真由美	⑪杉山 雅人(高等)	
		⑫松 岡 真 里	⑫青 山 朋 樹	⑫白 井 由 紀	⑫桑原 知子(高等)	
		⑬舟橋 春彦(高等)	⑬藤 井 康 友	⑬田 村 恵 子	⑬幡野 恭子(高等)	
				⑭古 田 真里枝		
				⑮ANAGNOSTOU Despoina		
				⑯PATAKY Todd		
				⑰木 下 彩 栄		
				⑱岡 昌 吾		
	全体統括見守り隊	黒 木 裕 士				
	控室待機担当	近 藤 祥 子				

* 学生人数は、H30度数

H31年度 3000人講習会サポートスタッフ配置案 (2019.3.22現在)

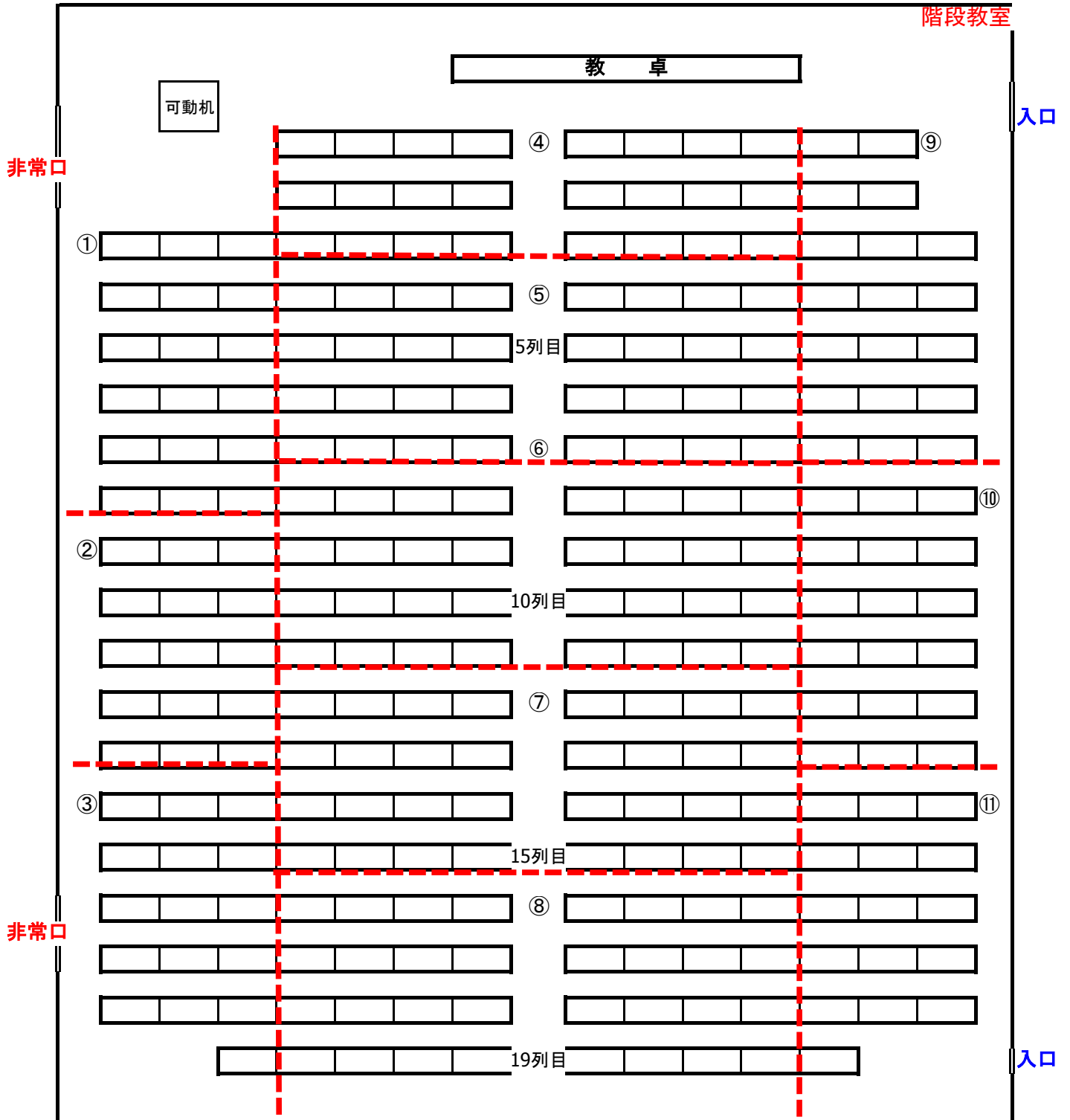
日程		2019/4/4 (木)				
講習会時間		15:20-16:00				
教室名(吉田南4号館)		4共11(1F)	4共21(2F)	4共30(3F)	4共31(3F)	合計
部局		工学部 (物理工学)	工学部 (工業化学)	工学部 (地球工学) (電気電子)	工学部 (建築) (情報)	
インスト		佐藤隆平	内藤知佐子	石見 拓	金丸敏幸 馬場正昭	
学生人数 *		243	245	334	180	1,002
あっぱくん個数		122	123	167	90	502
あっぱくん所属		研修センター	高等教育院	高等教育院	健康科学	
サポート スタッフ メンバー	あっぱくん 運搬責任者	清 水 彬 礼	上 野 智 弘	谷 口 匡 史	伊 藤 明 良	
		①森 瀬 譲 二	①池 添 冬 芽	①大 畑 光 司	①岡 橋 さやか	
		②大 塚 研 一	②笹 山 哲	②山 田 重 人	②加 藤 寿 宏	
	救護隊(救急部)	③陣上 直人	③高谷 悠大	③小池 薫	③奥野 善教	
		④山之内 智子	④柳 吉 桂 子	④石 津 浩 一	④大 倉 美 佳	
		⑤藤 井 康 友	⑤谷 一 靖 江	⑤前 田 祐 子	⑤中 村 光 宏	
		⑥伊 吹 謙太郎	⑥鳥 井 美 江	⑥高 桑 徹 也	⑥山 田 純 栄	
		⑦古 谷 和 紀	⑦田 畑 阿 美	⑦椎 名 毅	⑦宇都宮 明美	
		⑧清 川 加奈子	⑧梁 楠	⑧岡 昌 吾	⑧野 中 元 裕	
		⑨新 福 洋 子	⑨谷 向 仁	⑨足 立 壯 一	⑨徳 野 治	
		⑩島 淳	⑩高山 優子 (スポ実)	⑩奥 野 恭 史	⑩塚原 信行(高等)	
		⑪松 尾 英 将	⑪市 橋 則 明	⑪鎌 田 真由美	⑪伊藤紳三郎(高等)	
		⑫松 岡 真 里	⑫田島 敬史(高等)	⑫白 井 由 紀		
			⑬那須田周平(高等)	⑬桂 敏 樹		
				⑭田 村 恵 子		
				⑮ANAGNOSTOU Despoina		
				⑯PATAKY Todd		
				留学生担当:堤 貴彦		
	全体統括見守り隊		黒 木 裕 士			
控室待機担当		近 藤 祥 子				

* 学生人数は、H30度数

4/2(火)4共11

定員 254
予定人数 205

階段教室



○に囲まれた数字は、サポートスタッフ番号を意味し、担当していただく机の範囲を赤の破線で示しています。
数字は、机の列番号を意味しています。

4/2(火)4共21

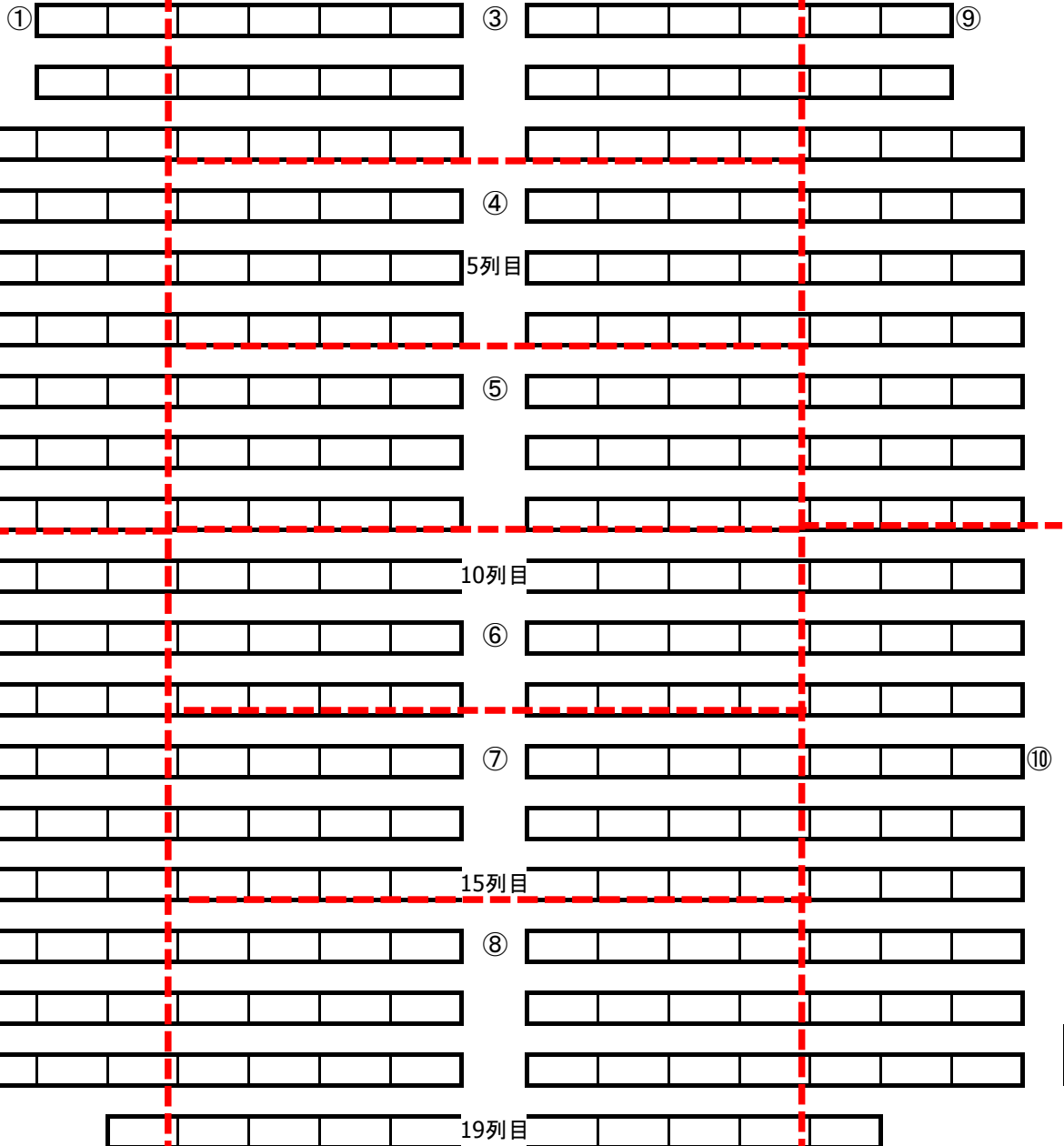
定員 258
予定人数 187

階段教室

非常口

入口

教 卓



非常口

入口

○に囲まれた数字は、サポートスタッフ番号を意味し、担当していただく机の範囲を赤の破線で示しています。
数字は、机の列番号を意味しています。

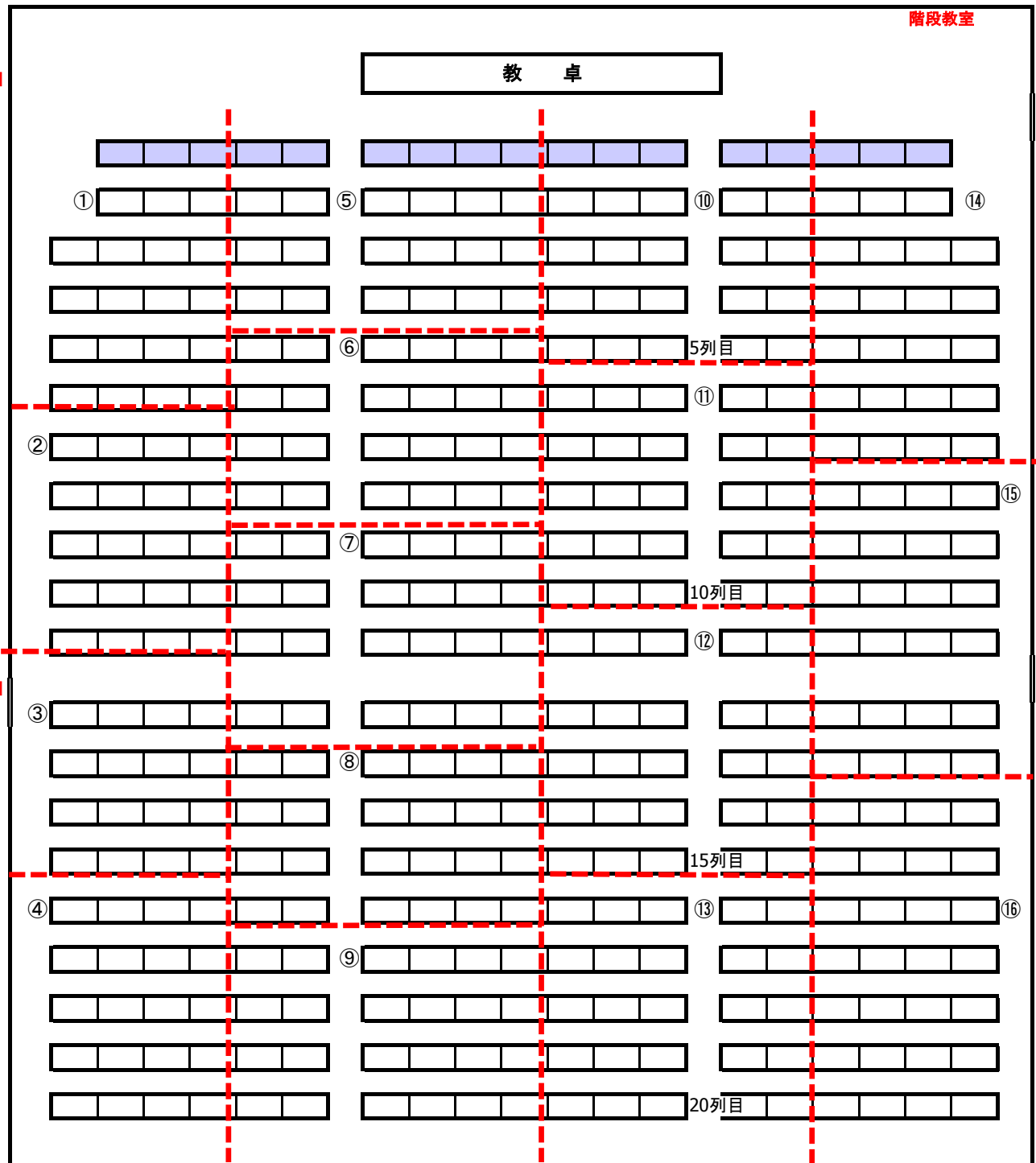
4/2(火)4共30

定員 376
予定人数 351

階段教室

非常口

入口



非常口

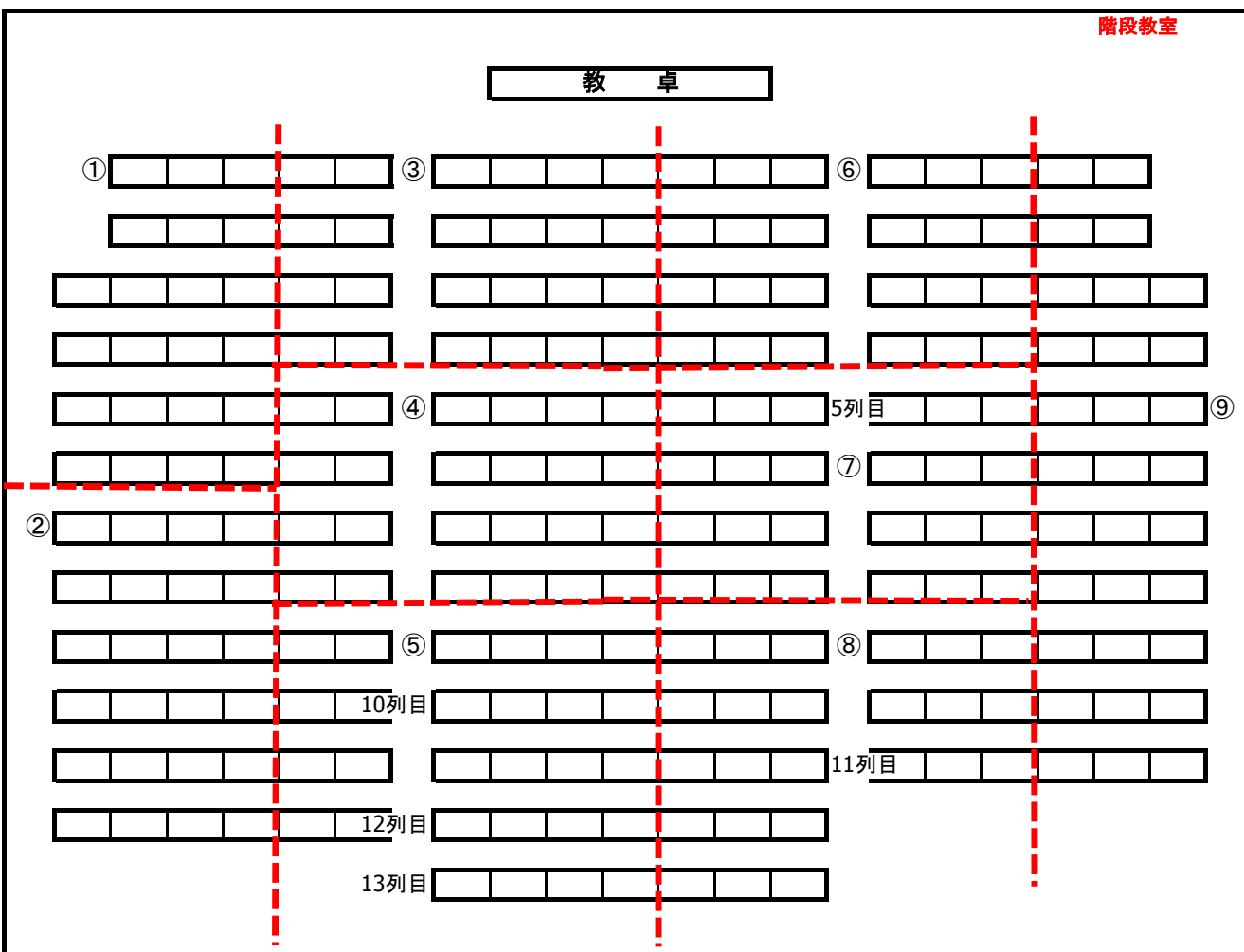
○に囲まれた数字は、サポートスタッフ番号を意味し、担当していただく机の範囲を示しています。
数字は、机の列番号を意味しています。

■: 可動機は使用しない。

4/2(火)4共31

定員 225
予定人数 192

入口

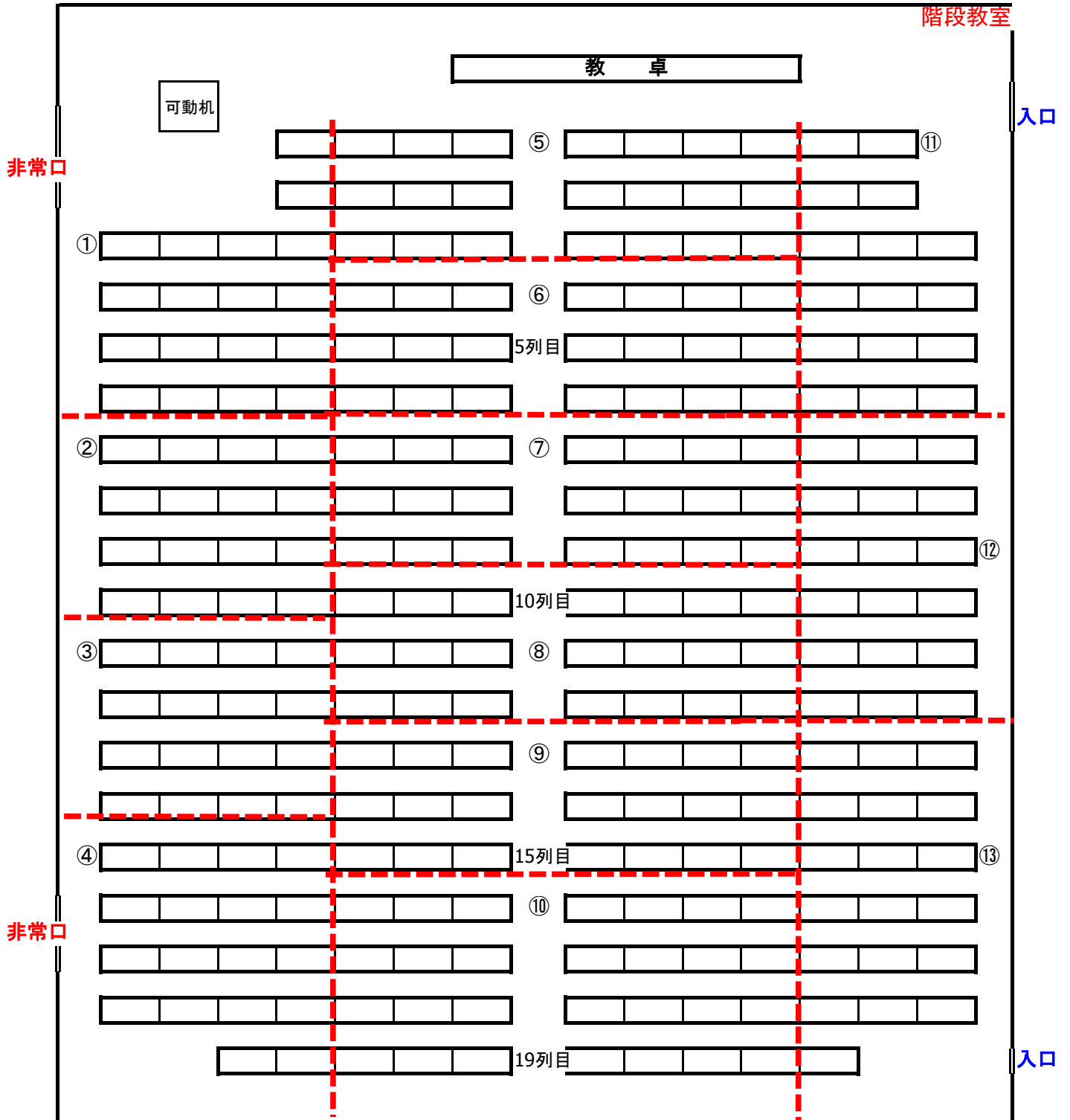


○に囲まれた数字は、サポートスタッフ番号を意味し、担当していただく机の範囲を赤の破線で示しています。数字は、机の列番号を意味しています。

4/3(水)4共11

定員 254
予定人数 226

階段教室



○に囲まれた数字は、サポートスタッフ番号を意味し、担当していただく机の範囲を赤の破線で示しています。
数字は、机の列番号を意味しています。

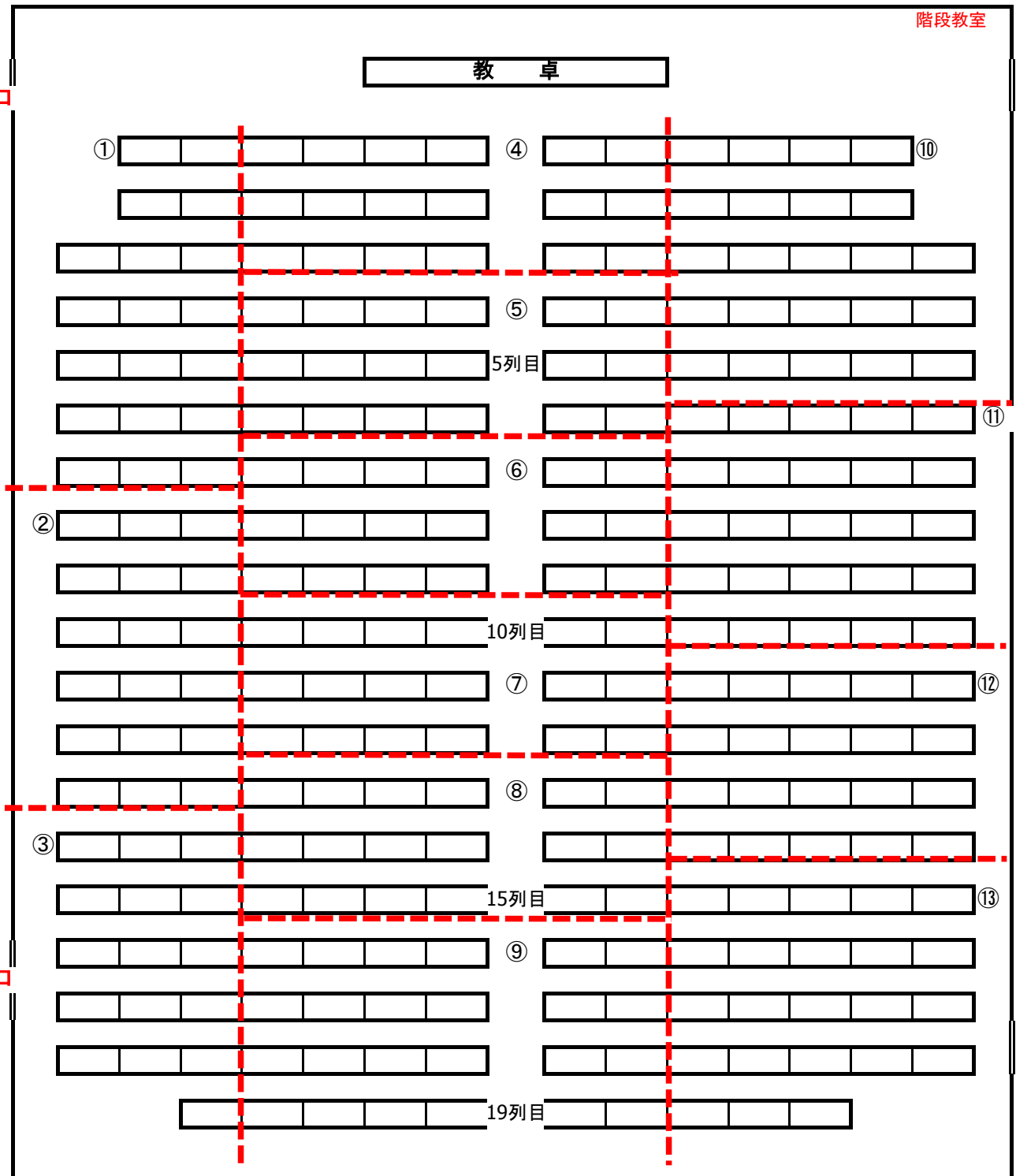
4/3(水)4共21

定員 258
予定人数 254

階段教室

非常口

入口



○に囲まれた数字は、サポートスタッフ番号を意味し、担当していただく机の範囲を赤の破線で示しています。
数字は、机の列番号を意味しています。

4/3(水)4共30

定員 376
予定人数 342

階段教室

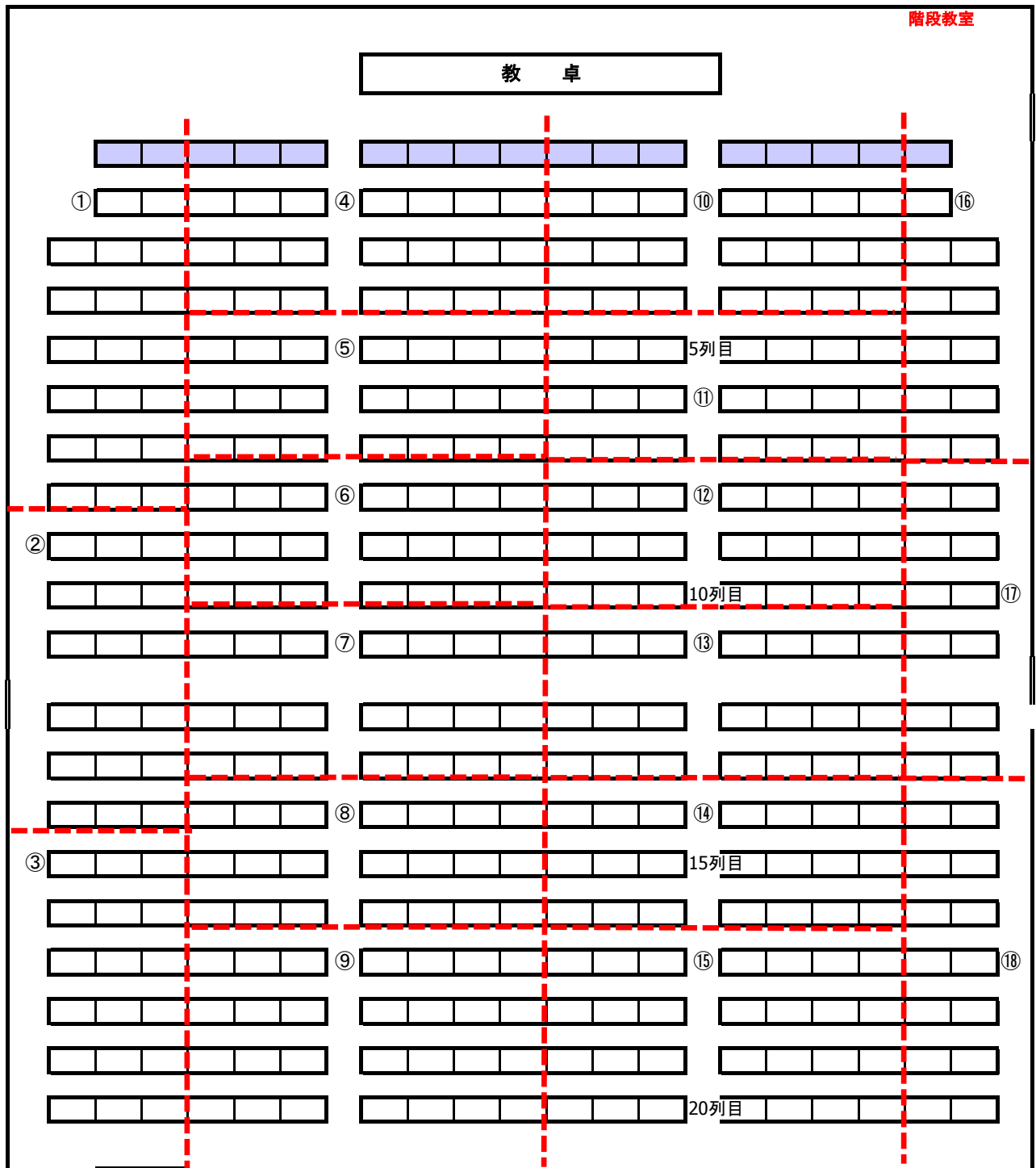
非常口

教 卓

入口

非常口

入口



非常口

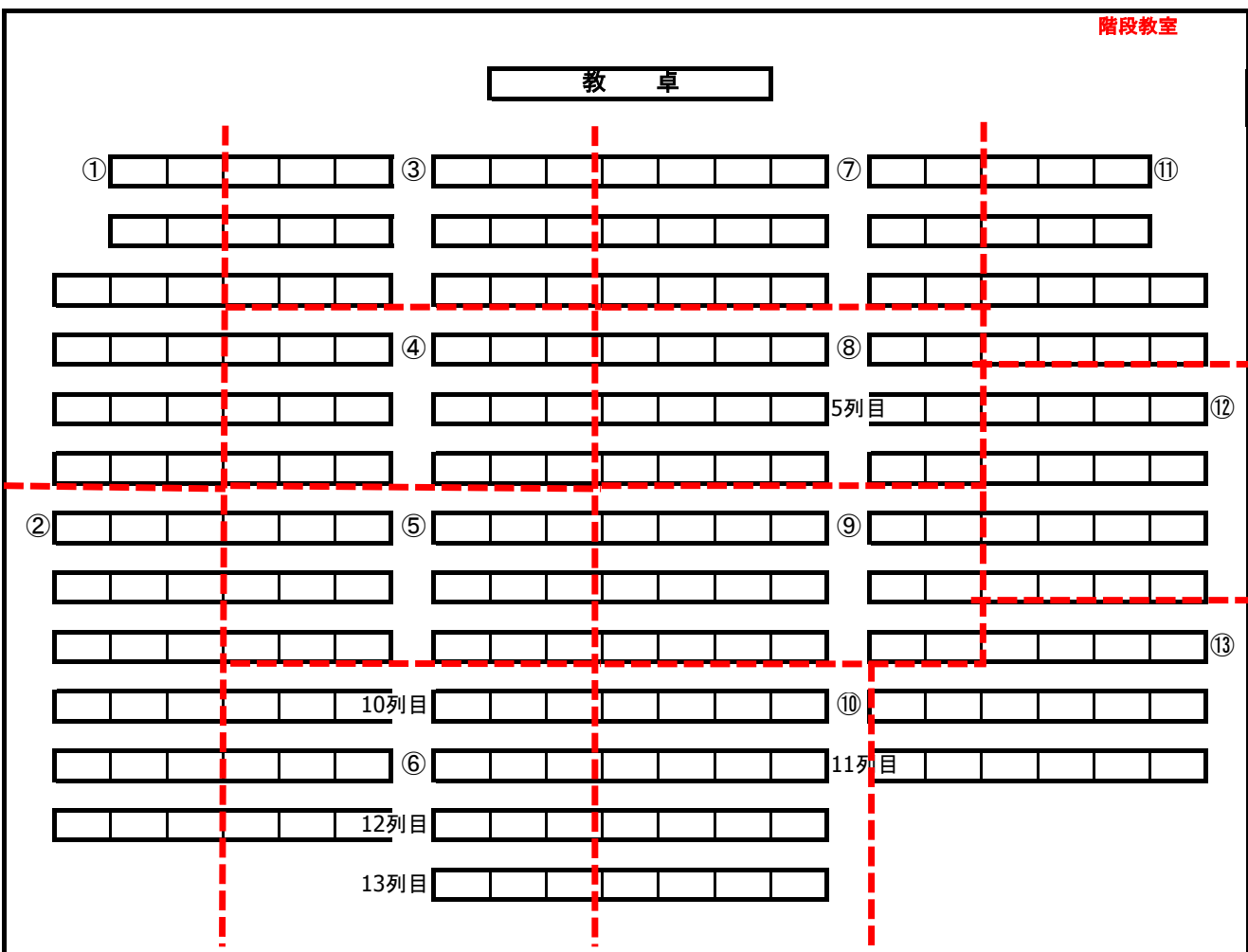
○に囲まれた数字は、サポートスタッフ番号を意味し、担当していただく機の範囲を赤の破線で示しています。
数字は、機の列番号を意味しています。

■ : 可動機は使用しない。

4/3(水)4共31

定員 225
予定人数 202

入口

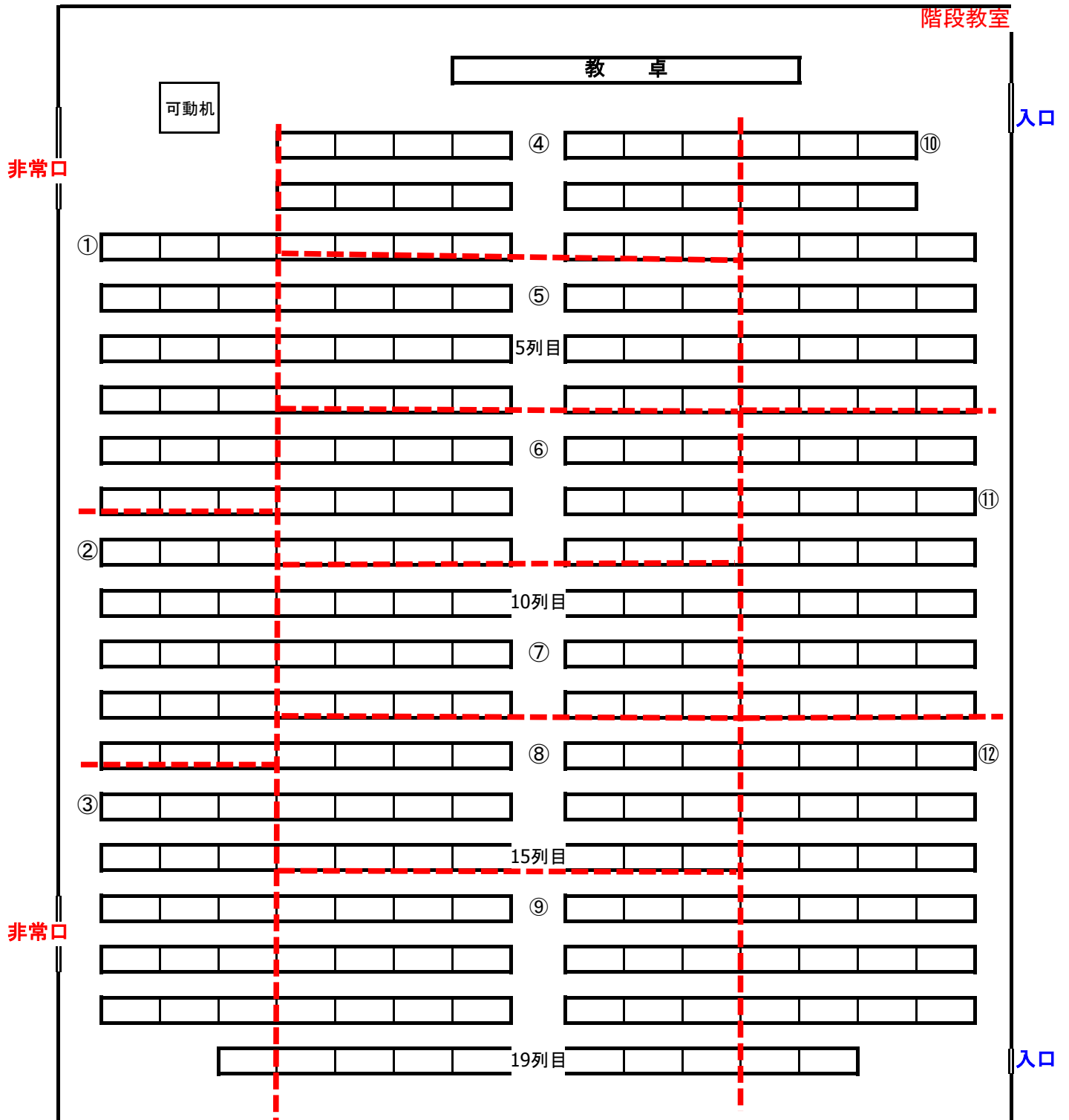


○に囲まれた数字は、サポートスタッフ番号を意味し、担当していただく机の範囲を赤の破線で示しています。数字は、机の列番号を意味しています。

4/4(木)4共11

定員 254
予定人数 243

階段教室



○に囲まれた数字は、サポートスタッフ番号を意味し、担当していただく机の範囲を赤の破線で示しています。
数字は、机の列番号を意味しています。

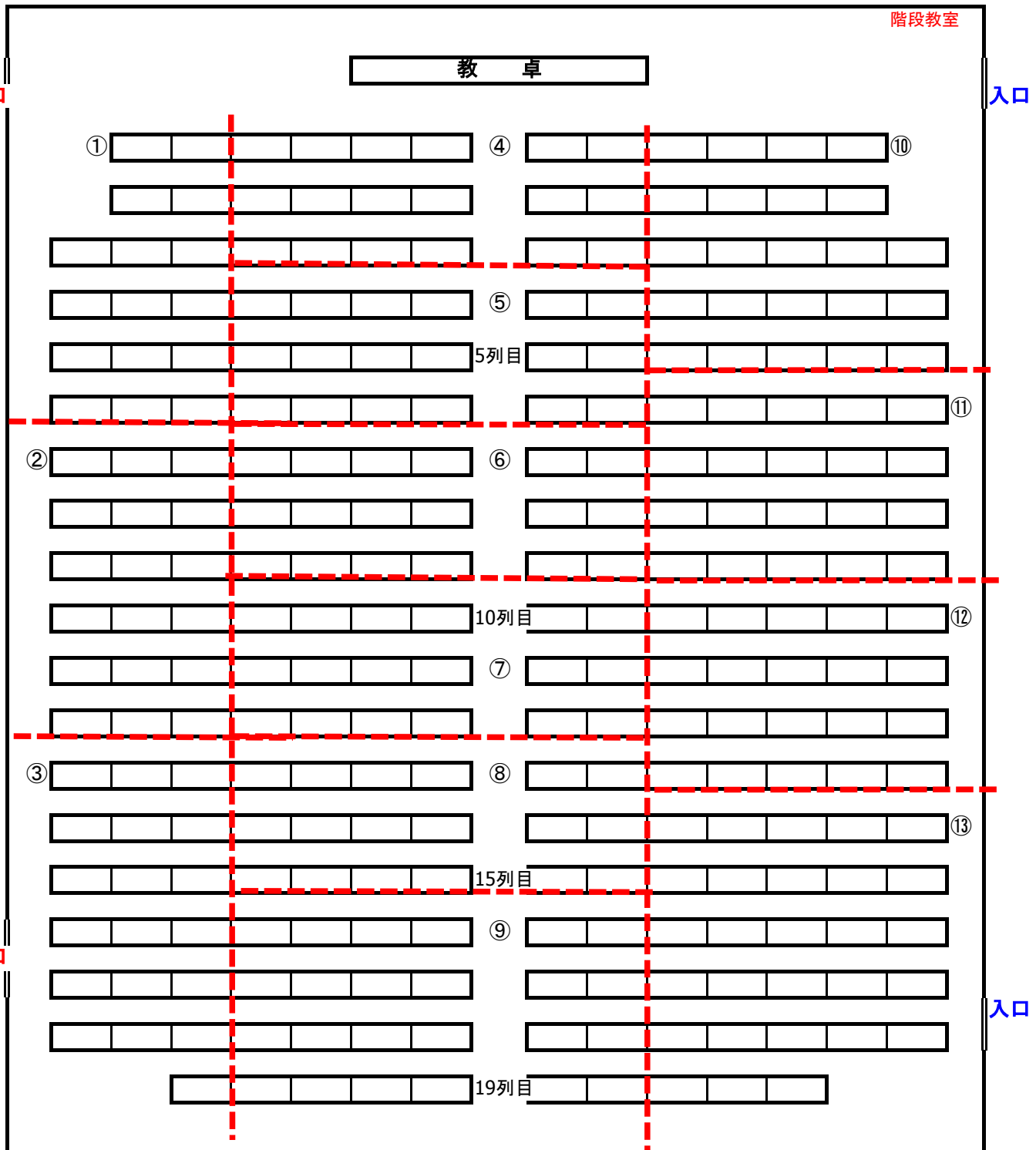
4/4(木)4共21

定員 258
予定人数 245

階段教室

非常口

入口



○に囲まれた数字は、サポートスタッフ番号を意味し、担当していただく机の範囲を赤の破線で示しています。
数字は、机の列番号を意味しています。

4/4(木)4共30

定員 376
予定人数 334

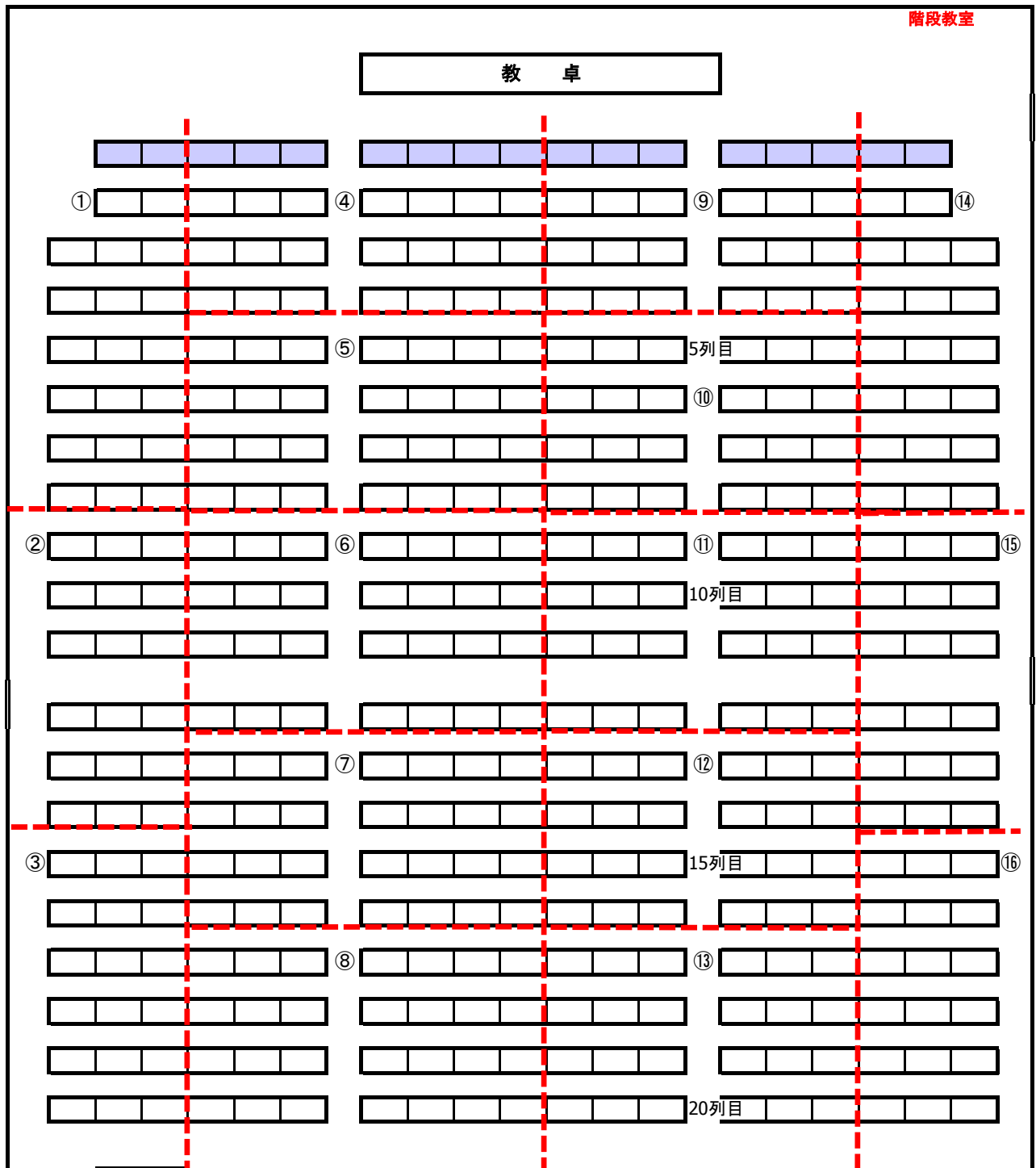
階段教室

非常口

入口

非常口

入口



非常口

○に囲まれた数字は、サポートスタッフ番号を意味し、担当していただく機の範囲を赤の破線で示しています。
数字は、機の列番号を意味しています。

■: 可動機は使用しない。

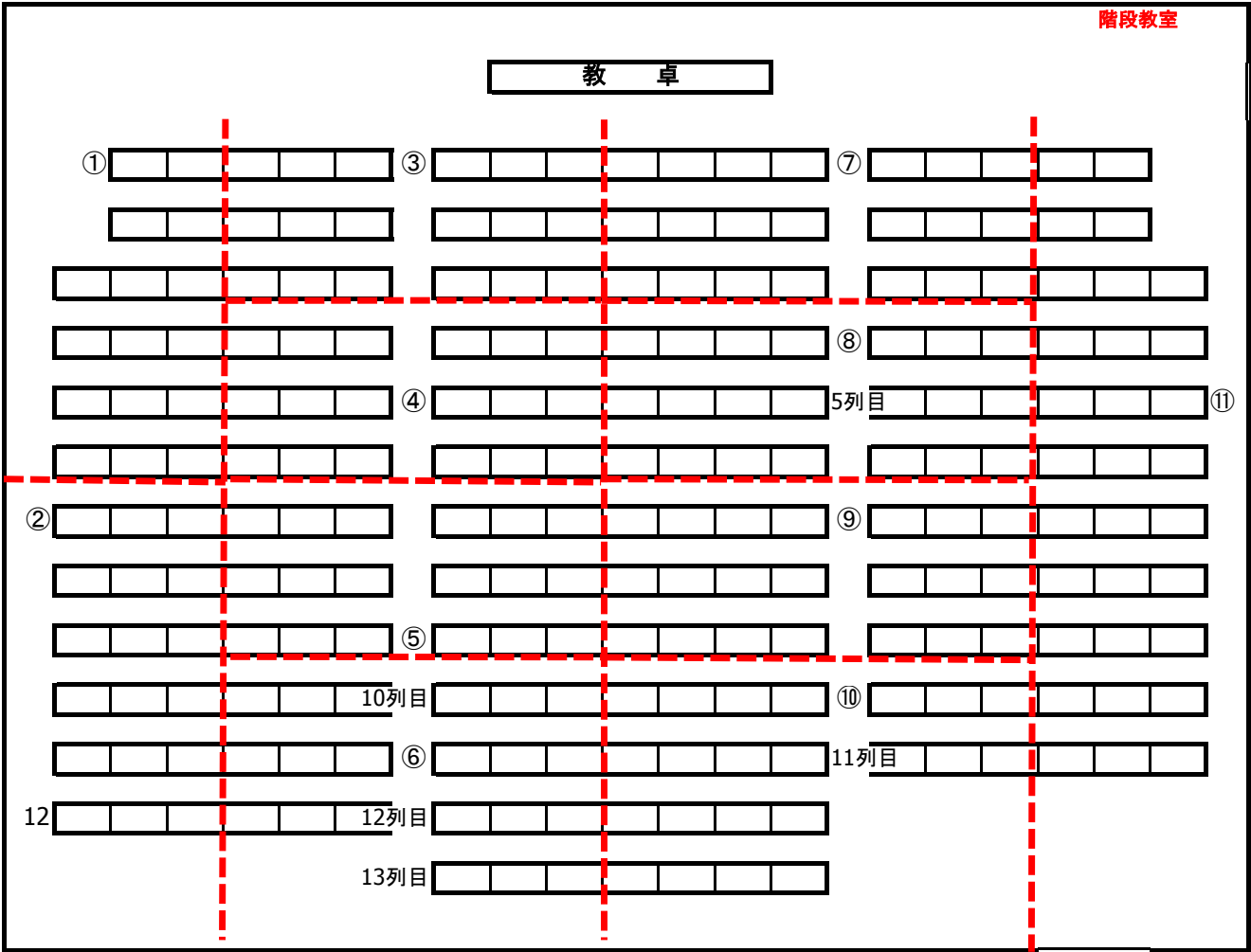
4/4(木)4共31

定員 225
予定人数 180

入口

階段教室

非常口



○に囲まれた数字は、サポートスタッフ番号を意味し、担当していただく机の範囲を赤の破線で示しています。数字は、机の列番号を意味しています。

X. 体調不良、怪我など

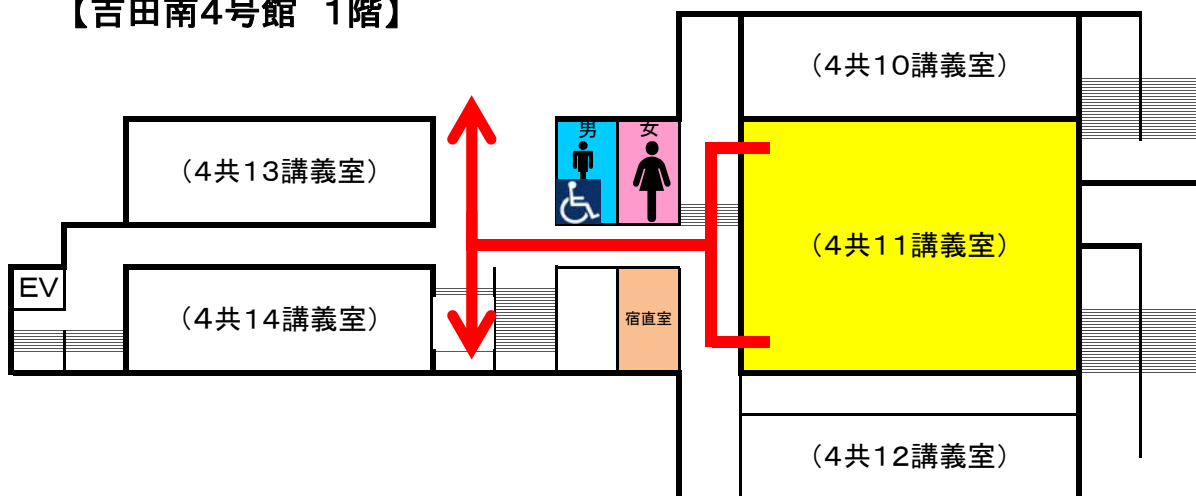
1. 4 共 14(1F)は、スタッフの控室兼、救命講習会中の救護室にしており、応急手当物品、担架、車いすを準備しています。控室には、看護の教員が 1 名待機しています。
2. 各部屋に救急部の医師が一人はサポートスタッフとしていますので(座席番号③)、何かあれば救護を求めて下さい。
3. 慣れない環境で、緊張状態の中、長時間に渡るガイダンスを受けています。講習会中、もし気分が悪い学生が出ましたら、無理に講習を継続させる必要ありません。疲れる学生も出るかもしれません。そのような場合は、座席で休むように伝えたり、その学生のみ講習会を中断させて 4 共 14(1F)へ誘導していただいても結構です。
4. 講習会中盤に、2 人一組になって胸骨圧迫の交代の練習をする場面がありますが、ここで学生同士がぶつかる可能性があります。インストラクターが移動の向きを指示しますが、万が一けがをした場合は、その学生のみ講習会を中断させて 4 共 14(1F)へ誘導して下さい。

XI. 地震・火災等避難方法

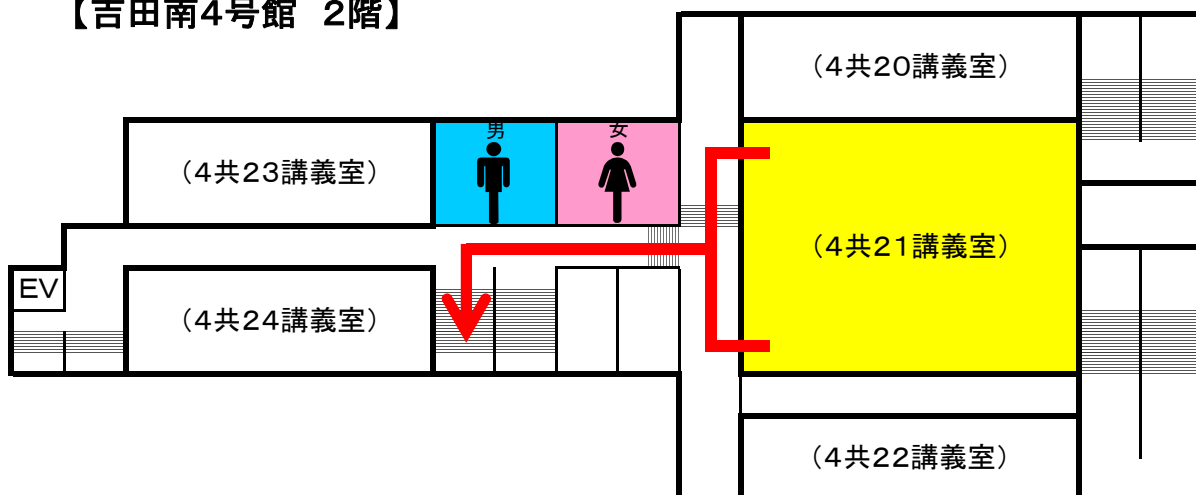
万が一、講習会中に地震・火災等の緊急事態が行った場合は、インストラクターの指示に従い各部屋の非常口(4 共 30、4 共 31 は東側(窓側))から避難するよう学生を誘導して下さい。各部屋の配置図に赤字で「非常口」と記載しております。(次ページ避難経路参照)

吉田南4号館 避難経路図

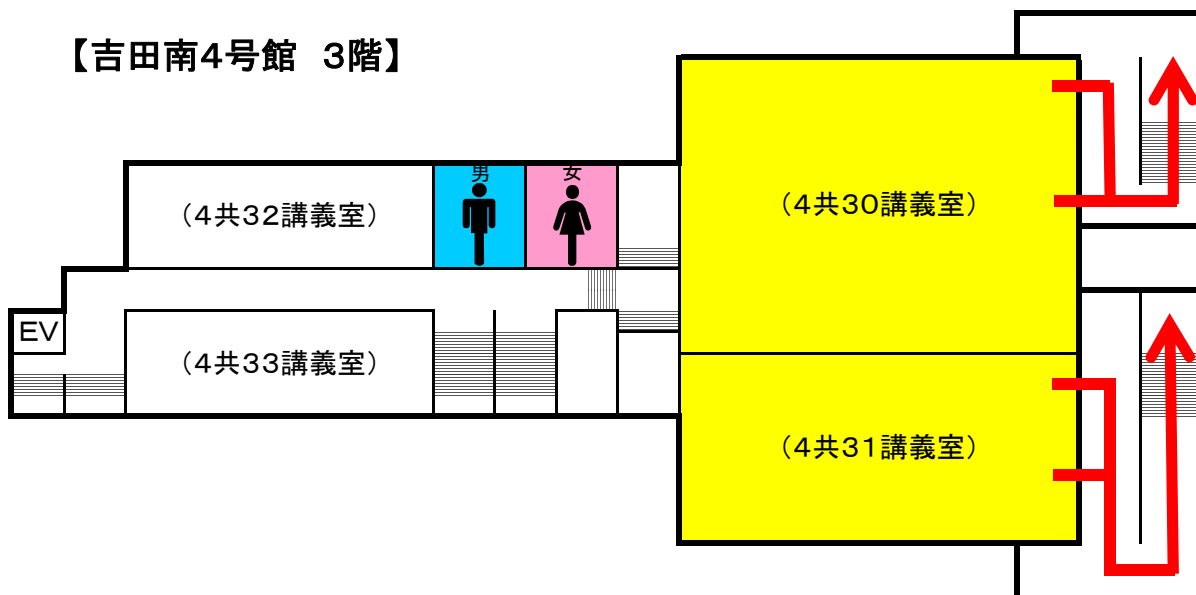
【吉田南4号館 1階】



【吉田南4号館 2階】



【吉田南4号館 3階】



H31 年度新入生 3000 名への救命講習会の計画立案、運営、サポートスタッフ手順書作成は、救命救急講習 Project TEAM メンバーおよび、人間健康科学系専攻の教員によって行いました。

【救命救急講習 ProjectTEAM メンバー】

チームリーダー	石見 拓（環境安全保健機構 健康科学センター・教授）
サブリーダー	黒木裕士（医学研究科・人間健康科学系専攻・教授）
チームメンバー	馬場正昭（理学研究科・化学専攻物理化学講座・教授）
チームメンバー	川村 孝（環境安全保健機構 健康科学センター・教授）
チームメンバー	小池 薫（医学研究科・初期診療・救急医学分野・教授）
チームメンバー	田中真介（国際高等教育院・准教授）
チームメンバー	金丸敏行（国際高等教育院・准教授）
チームメンバー	佐藤隆平（医学研究科・人間健康科学系専攻・助教）
チームメンバー	内藤知佐子（医学部附属病院 総合臨床教育・研修センター・助教）
チームメンバー	小林大介（環境安全保健機構 健康科学センター・助教）
チームメンバー	江川達郎（人間・環境学研究科・共生人間学専攻認知・行動科学講座・助教）
コーディネーター	西山知佳（医学研究科・人間健康科学系専攻・講師）

【あっぱくん運搬担当および、資料作成担当サポート】

森瀬譲二（医学研究科・人間健康科学系専攻・助教）
岡橋さやか（医学研究科・人間健康科学系専攻・助教）